

アジア経済論 I

担当教員 一当銘 学

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年アジア経済の発展は著しい。世界の「工場」から世界の「市場」へと変貌しつつあるアジア経済の軌跡と特徴を把握しつつ、高度経済成長の原動力となった政府の役割、そしてその牽引力となった外資による対アジアへの直接投資と貿易を理解する。またアジア通貨危機の諸要因を分析することと、そして現在直面している課題をみていく。次に、地域経済の枠組みと捉えてよいNIEsとASEAN、そして経済大国となった中国などの発展経緯と直面する課題を考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	アジア経済の経済発展と政府の役割
3	同上
4	経済発展をもたらした直接投資と貿易
5	同上
6	アジア通貨危機と経済再建への取り組み
7	同上
8	まとめ、中間テスト
9	新たな成長シナリオを模索するNIEs
10	同上
11	成長の踊場を迎えたASEAN経済
12	同上
13	真の経済大国への道を歩む中国
14	同上
15	現在のアジア経済
16	まとめ、期末テスト

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもち、テスト解答にはテキストを購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

450点満点。出席点:150点、テスト:300点(中間テスト・期末テスト、各150点満点)。テスト、出席状況、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

『テキストブック 21世紀アジア経済』 今井宏・高安健一・坂東達郎・三島一夫 著 (勁草書房)

【参考文献】

渡辺利夫著『中国の躍進アジアの応戦』など、テキストの各章の末尾に記載されている書籍等。

アジア経済論Ⅱ

担当教員 一当銘 学

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1985年のプラザ合意以降、日本企業によるアジアへの直接投資が急増するが、本講義では日本企業のアジア進出の歴史と事業展開を、エレクトロニクス産業、自動車産業、そして銀行業を通じて理解を深める。次に、成長と安定に向けたアジア全体の枠組みを把握し、そして世界における貿易自由化と地域経済統合の動きを概観したうえで域内における経済協力の現状と問題点を分析しつつ、日本の経済支援の在り方を考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	アジア経済論IのReview
2	日本企業の事業展開
3	同上
4	エレクトロニクス産業と日本企業の事業展開
5	同上
6	自動車産業と日本メーカーの事業展開
7	同上
8	アジア金融市場と邦銀の事業展開
9	同上
10	アジアにおける経済安全保障
11	同上
12	地域経済統合の進展
13	同上
14	日本の対アジア政府開発援助
15	同上
16	総括、 期末テスト

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもち、テスト解答にはテキストを購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

450点満点。出席点:150点、 期末テスト: 150点、 レポート: 150点。
出席状況、テスト、レポート、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

アジア経済論Iと同等のテキストを使用する。

【参考文献】

アジア経済論Iを参照すること。

インターネットと経済学

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、論文・レポートの作成に必要な経済統計の情報が、どのようなところにあり、どのように活用できるのかを学ぶことを目的とする。具体的には、重要となる経済統計の情報を各省庁・研究機関のWebサイトを通じて一通り確認し、その情報の経済学的な意味の解釈を中心に講義を行う。これらの情報を元に、簡単な計量分析を行うことを通じ、現実の社会における問題点の定量的な把握方法について学んでもらいたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（登録と講義計画）
2	経済分析に用いる統計情報
3	情報検索の使い方
4	白書・レポート（政府系機関）
5	人口（人口構成・平均余命・将来推計）
6	労働（都道府県別失業および就業状態・労働需要）
7	企業（都道府県別設備投資・企業収益）
8	物価・景気（物価指数・景気動向）
9	家計（家計収支・世代間および世代内格差・消費（貯蓄）動向）
10	政府（国家予算・都道府県の財政）
11	金融（金利・通貨供給・為替）
12	企業分析1
13	企業分析2
14	企業分析3
15	分析への応用
16	期末考査（レポート含む）

【履修上の注意事項】

基礎的なミクロ経済学・マクロ経済学やPCの使い方に関し知識があることが望ましい。（必須ではない）

【評価方法】

レポート、出席、テスト、その他を加味し評価。

【テキスト】

詳細は第一回目の講義の際に指示する。

【参考文献】

福田慎一・照山博司，2011，マクロ経済学・入門 第4版（有斐閣アルマ）
鈴木正俊，2006，経済データの読み方（岩波新書）

欧米経済論 I

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、主として歴史を軸にアメリカの経済構造や政治構造を学んでいくことを目的とする。とりわけアメリカ合衆国に焦点を絞って、内政・外交・経済などについて知識を広げていく。また必要に応じて、企業の勃興や生産システムの構築などにもふれ、アメリカの経済について考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介と評価の方法
2	独立戦争
3	産業革命
4	南北戦争
5	自動車産業の勃興
6	第一次世界大戦
7	大恐慌
8	中間試験
9	ニューディール
10	第二次世界大戦
11	冷戦時代
12	ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争にみる経済活動
13	サブプライム・ローンやリーマン・ショックが語るアメリカ経済
14	現代アメリカ経済を考える
15	欧米経済論 I の質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 私語、遅刻、理由なき途中退席、不必要な携帯電話の使用などは厳禁である。
- (2) 毎回の小テスト以外にも、質疑応答を実施する。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）で評価する。

【テキスト】

萩原・中本編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005年。
ロバート・B・ライシュ『暴走する資本主義』（雨宮・今井訳）、東洋経済新報社、2008年。

【参考文献】

各回の講義で適宜紹介する

欧米経済論Ⅱ

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

欧米経済論Ⅰを受けて本講義では、EUを対象とした経済分析を進め、ヨーロッパの政治・経済統合に伴う各国の動きを歴史的に解明していくことを目的としている。また身近に存在する企業との関連性もふまえて講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介と評価の方法
2	EUの概要(制度、歴史)
3	英国①
4	英国②
5	英国③
6	フランス①
7	フランス②
8	中間試験
9	ドイツ①
10	ドイツ②
11	EUの拡大と統合①
12	EUの拡大と統合②
13	共通通貨ユーロの意義①
14	共通通貨ユーロの意義②
15	共同体とその意味
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 講義中の私語・携帯電話などは禁止である。
- (2) 新聞の国際欄を読むように習慣づけること。

【評価方法】

出席(50%) + 試験(中間25% + 期末25%) で評価する。

【テキスト】

辻悟一『EUの地域政策』世界思想社、2003年。

【参考文献】

田中他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2001年。
羽場『拡大ヨーロッパの挑戦』中公新書、2004年。

応用ミクロ経済学

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学は、希少な財・資源を用いてどのように人間の福利を高め、経済社会の発展に結びつけるかを探求する学問です。経済学の基礎理論は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。ミクロ経済学は、経済を構成する各主体（家計・企業・政府）の行動原理を研究する学問です。本講義では、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱで学んだ内容の応用編として、不完全競争市場やゲーム理論、情報の経済学、行動経済学等について説明します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション - 講義の進め方、関連講義の紹介と本講義の位置付け、講義アンケート -
2	市場メカニズム① - 消費者行動の理論 -
3	市場メカニズム② - 消費者行動の理論 -
4	市場メカニズム③ - 企業行動の理論 -
5	市場メカニズム④ - 企業行動の理論 -
6	市場メカニズム⑤ - 市場経済の効率性 -
7	不完全競争市場 - 独占、寡占、規制 -
8	ゲーム理論① - 囚人のジレンマ、ナッシュ均衡 -
9	ゲーム理論② - トリガー戦略、繰り返しゲーム、産業の立地とゲーム理論 -
10	ゲーム理論③ - 経済政策とゲームの理論 -
11	市場の失敗① - 外部効果、地球環境問題と市場メカニズム -
12	市場の失敗② - 公共財、市場メカニズムと政府 -
13	不完全情報の経済学① - 情報の非対称性、レモン市場、逆選択 -
14	不完全情報の経済学② - モラルハザードとエイジェンシーの理論 -
15	行動経済学 - 合理的経済人と経済学、経済学の新展開 -
16	講義のまとめ

【履修上の注意事項】

講義の終わりに小テスト（不定期）を実施する場合があります。本講義は、ミクロ経済学Ⅰ、Ⅱの応用編です。

【評価方法】

期末テスト、小テスト、出席状況等を勘案して評価します。

【テキスト】

特になし（適宜、パワーポイント資料を配布します）。

【参考文献】

伊藤元重（2001）『ミクロ経済学』日本評論社。

沖縄経済入門

担当教員 浦本 寛史（他、複数教員）

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地元、沖縄経済について入門的な内容を講義する。沖縄経済の過去、現状、将来の課題等についてを経済学各分野からの視点を通じて直感的に理解できるようになることが本講義のねらいである。地元経済をまずはよく知り、そこから日本経済、アジア経済や世界経済を見て、自分の立つところを相対化できるようになることに主眼を置いている。なお、同講義は経済学科専任スタッフ全員と外部特別講師で担当する。

【授業の展開計画】

授業の内容

週	授 業 の 内 容
1	講義計画、成績評価方法、その他について（浦本）4/9
2	沖縄の小売業：サンエーの経済学（宮城）第1回講義
3	沖縄のソーシャルビジネス（村上）第2回講義
4	沖縄の文化産業の構造（浦本）第3回講義
5	沖縄の観光と経済（湧上）第4回講義
6	沖縄の若年者雇用問題（名嘉座）第5回講義
7	沖縄の交通問題（梅井）第6回講義
8	沖縄の財政と社会保障（長嶋）第7回講義
9	沖縄の金融（安藤）第8回講義
10	沖縄の都市問題（崎浜）第9回講義
11	沖縄の基地問題（前泊）第10回講義
12	国際経済（新垣）第11回講義
13	経済統計（金城）第12回講義
14	沖縄の財政と社会保障（比嘉）第13回講義
15	地域社会経済（平敷）第14回講義
16	総轄・テストまたはレポート（浦本）

【履修上の注意事項】

私語や携帯電話等、他の受講生に迷惑のかかる行為等は自重し、マナーを守ること。

【評価方法】

テストまたはレポートの成績、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

沖縄経済論

担当教員 平敷 卓

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、沖縄経済論の導入編として、基礎的な統計資料等を活用して、沖縄経済の位置を確認し、課題を読み解くことを主眼として講義を行う。講義では時々のトピックテーマを取り上げ、実際の沖縄を取り巻く経済事象ないし政策から沖縄経済についての理解を深めていく視点を得ることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、授業評価方法等について
2	沖縄経済の位置—基礎的統計資料から
3	沖縄経済を見る視点
4	沖縄経済の成り立ち—復帰前後の沖縄経済
5	沖縄経済の成り立ち—産業構造の変遷
6	沖縄経済と振興策—振興予算の変遷
7	沖縄経済と振興策—復帰以降の沖縄県財政
8	沖縄経済と基地財政
9	沖縄の産業—観光
10	沖縄の産業—情報産業
11	沖縄の産業—環境・健康産業
12	沖縄の産業—物流等
13	沖縄振興政策の展望
14	沖縄経済の自律的・持続可能な発展に向けて① —地域活性化の取組
15	沖縄経済の自律的・持続可能な発展に向けて② —地域活性化の取組
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

基本的な受講マナーを守ること（私語、携帯電話等）。講義では沖縄の経済時事を扱うため、日ごろから新聞記事等に目を通しておくこと。

【評価方法】

期末テスト 70% フィードバックペーパー（小テスト込） 30%

3分の2以上の欠席は、期末テストの受験資格を失います。

欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

講義中適宜提示する。

貨幣経済論 I

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、「貨幣」が経済活動に与える影響を学びます。私達が経済活動を営むうえで、「貨幣」は欠かせない存在です。家計は、企業等に労働力を供給して所得（貨幣）を得て、その所得をもとに消費活動を行います。また、企業は、生産要素を用いて財を生産、販売することで収入（貨幣）を得ます。このように、各経済主体が円滑に経済活動を行うためには、貨幣の存在が不可欠です。

本講義では、こうした各経済主体と貨幣との関わりについて学ぶとともに、一国全体の貨幣需要と貨幣供給が経済に及ぼす影響について、マクロ経済学等の理論を用いながら検討していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と貨幣、講義アンケート -
2	市場と貨幣① - 市場メカニズム：需要と供給、市場と貨幣 -
3	市場と貨幣② - 国民所得の諸概念 -
4	市場と貨幣③ - 国民所得の決定 -
5	貨幣の本質と貨幣経済① - 貨幣の概念、貨幣の諸機能 -
6	貨幣の本質と貨幣経済② - 貨幣の歴史、貨幣経済の特徴 -
7	家計の行動 - 家計の行動と資産選択 -
8	貨幣の供給① - 貨幣の種類とマネーサプライ -
9	貨幣の供給② - 貨幣供給と金融政策 -
10	貨幣の需要① - 貨幣数量説、流動性選好説 -
11	貨幣の需要② - 債券価格と利子率、貨幣市場の均衡 -
12	貨幣経済再考 - 資本主義と貨幣、貨幣経済の行方 -
13	国際経済と貨幣
14	地域経済と貨幣
15	本講義のまとめ、期末テストの説明
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義の終わりに小テスト（不定期）を実施する場合があります。

【評価方法】

期末テスト、小テスト、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

【テキスト】

適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布します。

【参考文献】

藤本訓利・関谷喜三郎（2012）『マクロ経済学と貨幣』八千代出版
坂口明義（2008）『貨幣経済学の基礎』ナカニシヤ出版

貨幣経済論Ⅱ

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、「貨幣」が経済活動に与える影響を学びます。私達が経済活動を営むうえで、「貨幣」は欠かせない存在です。家計は、企業等に労働力を供給して所得（貨幣）を得て、その所得をもとに消費活動を行います。また、企業は、生産要素を用いて財を生産、販売し、収入（貨幣）を得ます。このように、各経済主体が円滑に経済活動を行うためには、貨幣の存在が不可欠です。

本講義では、貨幣経済論Ⅰで学んだ基礎理論を踏まえながら、金融政策を中心とした経済政策が国内外の経済（物価、為替等）に与える影響を検討します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション – 講義の進め方、本講義と貨幣経済論Ⅰとの関係、講義アンケート –
2	市場経済における貨幣の役割 – 貨幣の役割再考（概論） –
3	貨幣経済と物価① – 物価指数、インフレ過程とデフレ過程 –
4	貨幣経済と物価② – インフレと貨幣供給量 –
5	貨幣経済の安定性① – ハイパーインフレと中央銀行、デフレーション –
6	貨幣経済の安定性② – 貨幣経済と労働市場 –
7	貨幣経済における経済政策① – 金融政策 –
8	貨幣経済における経済政策② – 所得政策 –
9	貨幣経済における経済政策③ – 財政政策① –
10	貨幣経済における経済政策④ – 財政政策② –
11	国際経済と貨幣① – 複数通貨と資産市場 –
12	国際経済と貨幣② – 貿易と経済成長、通貨政策 –
13	国際経済と貨幣③ – 世界経済の安定と貨幣経済 –
14	本講義のまとめ① – 貨幣経済論Ⅰを踏まえて内容を整理 –
15	本講義のまとめ② – 貨幣経済論Ⅱの要点整理、期末テストの説明 –
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義の終わりに小テスト（不定期）を実施する場合があります。貨幣経済論Ⅰを受講することが望ましい。

【評価方法】

期末テスト、小テスト、出席状況等を勘案して総合的に判断する。

【テキスト】

適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布します。

【参考文献】

藤本訓利・関谷喜三郎（2012）『マクロ経済学と貨幣』八千代出版
坂口明義（2008）『貨幣経済学の基礎』ナカニシヤ出版

環境経済学 I

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。しかし、環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境は効率と公正との緊張関係にあるのである。このような問題意識に基づいて、環境経済学の理論のみならず、身近な沖縄の環境問題を経済学の観点より分かりやすく解説する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境と経済の話1
- 2週目：環境と経済の話2
- 3週目：沖縄経済と地域発展
- 4週目：環境破壊の経済的メカニズム
- 5週目：市場と外部経済
- 6週目：環境の経済価値
- 7週目：環境の価値評価の手段
- 8週目：開発と社会的共通資本1
- 9週目：開発と社会的共通資本2
- 10週目：環境政策の手段
- 11週目：沖縄経済発展と観光財
- 12週目：沖縄経済の特徴
- 13週目：沖縄経済のディレンマ
- 14週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発
- 15週目：赤土汚染による生態系破壊
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。特にレポートと出席を重視する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

環境経済学Ⅱ

担当教員 呉 錫畢

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。そして、自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察し、さらに真の豊かさから見る経済発展の新たなパラダイムを提示する。

【授業の展開計画】

- 1週目：環境はいくらか
- 2週目：CVM(仮想市場評価法)
- 3週目：赤土汚染からみる沖縄の地域振興と開発の功罪
- 4週目：赤土汚染による生態系及び環境の損害評価
- 5週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状
- 6週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価
- 7週目：環境と沖縄の観光経済
- 8週目：竹富島とピノキオ観光
- 9週目：成長するアイルランド観光
- 10週目：アイルランド観光経済と沖縄観光
- 11週目：沖縄経済と済州経済
- 12週目：沖縄と済州の観光産業
- 13週目：内発的発展からみる沖縄経済の発展可能性
- 14週目：環境・経済・沖縄
- 15週目：真の豊かさとテーゲー経済学
- 16週目：期末試験

【履修上の注意事項】

環境と経済に対して問題意識を持つこと。講義を聴いている人に迷惑をかけること。

【評価方法】

期末試験、レポート、出欠等を中心に評価する。特にレポートと出欠を重視する。

【テキスト】

呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説ー』、日本経済評論社。

【参考文献】

- (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。
- (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。その他、テーマに添って随時紹介する。

企業分析

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

優良な企業とそうでない企業を見分けるためには、どうすればよいでしょうか？
人気ランキング、本社ビルの豪華さ、CMのイメージは役に立ちません。
企業の実力を知るためには財務分析・マーケティング分析が必要です。
財務分析・マーケティング分析の結果を総合的に判断するのが「企業分析」です。
自分で企業分析を行い、就職活動の対象としてふさわしい企業を選別していきましょう。
また企業分析は、金融機関が融資の可否決定を行う際に利用しています。

【授業の展開計画】

1. 講義の概要
2. マーケティング分析 (1)
3. マーケティング分析 (2)
4. マーケティング分析 (3)
5. マーケティング分析 (4)
6. マーケティング分析 (5)
7. マーケティング分析 (6)
8. 中間テスト
9. 財務分析 (1)
10. 財務分析 (2)
11. 財務分析 (3)
12. 財務分析 (4)
13. 財務分析 (5)
14. 融資の基礎知識 (1)
15. 融資の基礎知識 (2)
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

≪重要≫登録者の条件。以下の①～③のいずれかを満たす者。

- ①簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱを履修中または単位取得済み。
- ②簿記関係の単位を取得済み。
- ③日商簿記3級合格者。
毎回電卓を持参すること。

【評価方法】

出席（発表）・中間テスト・期末テストに基づき総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指定します。

【参考文献】

中島久「財務分析と定性分析による入門企業分析の手法と考え方」経済法令研究会、2009年

基礎演習 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習 I は、学生間及び教員とのコミュニケーションを深める場であり、情報収集、文章読解、文章作成能力などを高める場でもある。この演習では、大学生としての基本的スキルを身につけ、発表できる能力を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	テキストの読み方①
3	テキストの読み方②
4	資料の探し方①
5	資料の探し方②
6	レポートの書き方①
7	レポートの書き方②
8	フィールドワークー宜野湾市の土地利用変化ー
9	レジュメの書き方①
10	レジュメの書き方②
11	ゼミ発表の仕方
12	フィールドワークー中城村の企業立地
13	ゼミ発表・ディスカッション①
14	ゼミ発表・ディスカッション②
15	ゼミ発表・ディスカッション③
16	ゼミ発表・ディスカッション④

【履修上の注意事項】

出席、発表、課題の提出を重視する。

【評価方法】

成績評価は、出席、発表、課題提出などで、総合的に判断する。

【テキスト】

テキストは特にないが、参考文献は適宜指示する。

【参考文献】

森靖雄著『大学生の学習テクニック』大月書店

基礎演習 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これから大学で学ぶにあたって、必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新生は戸惑うことが多いようです。本基礎演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。演習のテーマ・内容は、1. 大学生として身につけておくべき「社会常識」2. レポートやプレゼンテーションに必要な「国語能力」3. 経済学を学ぶために必要な「基礎数学」の3つです。

【授業の展開計画】

「社会」「国語」「数学」の3つを、4～5回ずつ行う予定です。主な内容は以下の通りです。
社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。
国語能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。
基礎数学：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。難易度は、中学から高校程度である。

【履修上の注意事項】

クラス分けがされていますので、それに従って登録してください。その他詳しい説明は、第一回目の講義にて行います。全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【評価方法】

出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』専修大学出版社

【参考文献】

講義時に、適宜指示する。

基礎演習 I

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これから大学で学ぶにあたって、必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新生は戸惑うことが多いようです。本基礎演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。本演習では、情報検索から文献読解、文章作成、プレゼンテーションの基礎となる技能を習得し、グループワークを通じて、実践的な問題解決能力を身につけることを目的とします。

【授業の展開計画】

1. イントロダクション

- 各自の自己紹介、大学で学ぶということ、演習での基本ルールについて
- 2～4. 大学生活に向けての心構え、大学での過ごし方、学習方法
- 5～6. 文献や資料の調べ方
- 7～9. 本や論文の読み方—論旨と要約
- 10～12. レポートの書き方—問題発見とテーマ設定
- 13～15. グループワーク—報告の心得とプレゼンの基礎

※グループワークにあたっては、報告の心構えと準備、基礎的なプレゼンテーションの手法について学びます。

※適宜、課外活動も行います。

【履修上の注意事項】

詳しい説明は、第一回目に行います。全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【評価方法】

出席および課題レポート、課題報告により総合的に評価します。

【テキスト】

- 『知のツールボックス—新生生援助集—』専修大学出版局
- 『大学生と大学院生のためのレポート論文の書き方』ナカニシヤ出版

【参考文献】

適宜指示します。

基礎演習 I

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これから大学で学ぶにあたって、必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新生は戸惑うことが多いようです。本基礎演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。演習のテーマ・内容は、1. 大学生として身につけておくべき「社会常識」2. レポートやプレゼンテーションに必要な「国語能力」3. 経済学を学ぶために必要な「基礎数学」の3つです。

【授業の展開計画】

「社会」「国語」「数学」の3つを、4～5回ずつ行う予定です。主な内容は以下の通りです。

社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。

国語能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。

基礎数学：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。難易度は、中学から高校程度である。

【履修上の注意事項】

詳しい説明は、第1回目に行います。全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【評価方法】

出席および課題レポート、数学小テストにより総合的に評価します。

【テキスト】

『知のツールボックス－新生生援助集－』専修大学出版社

【参考文献】

適宜指示します。

基礎演習 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

これから大学で学ぶにあたって、必要なスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、自らコントロールして、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることが出来る準備を行います。演習のテーマ・内容は、1. 大学生として身につけておくべき「常識」2. レポートやプレゼンテーションなどの「表現能力」3. 経済学を学ぶために必要な「基礎数学」の3つの取得を目指します。

【授業の展開計画】

第1～5回：社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。

第6～11回：表現能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。

第12～15回：基礎数学など：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席および課題レポート、数学小テストにより総合的に評価します。

【テキスト】

『知のツールボックス－新入生援助集－』専修大学出版局

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、経済に関する文献、新聞記事、雑誌等を講読することで「経済をみる眼」を養っていきます。また、これらの文献を講読することを通じて、文章読解能力やプレゼンテーション能力の向上をはかります。本演習は、学生が主体的に学ぶことが前提となります。「課題をみつけ→課題に関する情報を収集・整理し→課題解決のための方策を提案する」という作業は、社会のあらゆる場面で要求されます。したがって、本演習においても“自分で調べること”、“自分の意見を述べること”を要求します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション - 演習の進め方、アンケート -
2	大学（経済学科）で学ぶ意義について①
3	大学（経済学科）で学ぶ意義について②
4	経済文献の講読① - 担当者報告、文献解説、議論 -
5	経済文献の講読② - 担当者報告、文献解説、議論 -
6	経済文献の講読③ - 担当者報告、文献解説、議論 -
7	経済文献の講読④ - 担当者報告、文献解説、議論 -
8	経済文献の講読⑤ - 担当者報告、文献解説、議論 -
9	経済文献の講読⑥ - 担当者報告、文献解説、議論 -
10	沖縄経済に関する調査① - グループ調査 -
11	沖縄経済に関する調査② - グループ調査 -
12	沖縄経済に関する調査③ - グループ調査 -
13	沖縄経済に関する調査④ - グループ調査 -
14	沖縄経済に関する調査⑤ - グループ調査 -
15	前期のまとめ①
16	前期のまとめ②

【履修上の注意事項】

演習科目のため、原則として皆出席を要求します。

【評価方法】

出席、提出物、受講態度等を勘案して評価する。

【テキスト】

特になし（適宜、資料を配布します）

【参考文献】

特になし

基礎演習Ⅱ

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、経済に関する文献、新聞記事、雑誌等を講読することで「経済をみる眼」を養っていきます。また、これらの文献を講読することを通じて、文章読解能力やプレゼンテーション能力の向上をはかります。

本演習は、学生が主体的に学ぶことが前提となります。「課題をみつけ→課題に関する情報を収集・整理し→課題解決のための方策を提案する」という作業は、社会のあらゆる場面で要求されます。したがって、本演習においても“自分で調べること”、“自分の意見を述べること”を要求します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	前期（基礎演習Ⅰ）の振り返り－基礎演習Ⅱの目標設定－
2	ディベート①－テーマ選定等－
3	ディベート②－グループ調査－
4	ディベート③－グループ調査－
5	ディベート④－グループ調査－
6	ディベート⑤－報告会①－
7	ディベート⑥－報告会②－
8	プレゼンテーション①－プレゼンの作法、プレゼン技術について－
9	プレゼンテーション②－資料作成、調査等－
10	プレゼンテーション③－資料作成、調査等－
11	プレゼンテーション④－資料作成、調査等－
12	プレゼンテーション⑤－資料作成、報告等－
13	プレゼンテーション⑥－資料作成、報告等－
14	プレゼンテーション⑦－資料作成、報告等－
15	後期まとめ①
16	後期まとめ②

【履修上の注意事項】

演習科目のため、原則として皆出席を要求します。

【評価方法】

出席、提出物、受講態度等を勘案して評価する。

【テキスト】

特になし（適宜、資料を配布します）

【参考文献】

特になし

基礎演習Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

習を行います。そのため、グループに分かれ設定したテーマにもとづき、統計データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマを深く追求していきます。クラスの中で発表し合うことによって、違った考えや意見があることを知り、また自分の意見を発表することができるようになります。後半には、クラス対抗のプレゼン大会を行い、競争を通じ楽しくプレゼン能力や課題解決能力などを磨いていきます。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス
第2週～第8週 テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク
第9週～第15週 クラス対抗プレゼン大会

【履修上の注意事項】

出席とグループでの発言内容、参加態度を重視する。全体の3分の1を欠席すると不可とする。

【評価方法】

出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス－新入生援助集－』専修大学出版局

【参考文献】

講義時に、適宜指示する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅱは、学生間及び教員とのコミュニケーションの場を深める場であり、読解力、情報収集・情報分析力、プレゼンテーション力などのスキルを高める場でもある。この授業では、大学生として基本的スキルを身につけて、その成果として、プレゼンテーション大会におけるグループ発表を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	後期ガイダンス
2	レジュメの作成方法
3	発表テーマの検討
4	発表テーマの検討
5	発表テーマの決定
6	プレゼンテーションの技法
7	プレゼンテーションの方法と実際
8	スライドの作り方（基礎編）
9	スライドの作り方（応用編）
10	プレゼン予行演習（第1回）
11	プレゼン予行演習（第2回）
12	プレゼン大会（第1回）
13	プレゼン大会（第2回）
14	プレゼン大会（第3回）
15	プレゼン大会（最終日）
16	まとめ

【履修上の注意事項】

出席、発表、課題の提出を重視する。

【評価方法】

成績評価は、出席、発表、課題提出などで、総合的に判断する。

【テキスト】

テキストは特にないが、参考文献は適宜指示する。

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

自らテーマを設定して学習する演習を行います。そのため、グループに分かれ設定した問題にもとづき、データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマに対しての解を見つけます。クラスの中で発表し合うことによって、内容をより洗練させていきます。後半では、クラス対抗でプレゼンテーション大会を行い、競争を通じ楽しくプレゼン能力やコミュニケーション能力などを磨いていきます。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス
第2週～第8週 テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク
第9週～第15週 クラス対抗プレゼン大会”

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席（80％）および、課題の提出状況（20％）

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で学んだ基礎演習Ⅰを踏まえて、自分たちでテーマを設定してそれをみんなで考えて発表していくような演習を行います。そのため、グループに分かれ設定したテーマにもとづき、統計データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマを深く追求していきます。クラスの中で発表し合うことによって、違った考えや意見があることを知り、また自分の意見を発表することができるようになります。クラス対抗のプレゼン大会を行い、競争を通じて楽しくプレゼン能力や課題解決能力などを磨いていきます。

【授業の展開計画】

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 プレゼンテーションとは

第5回～第13回 テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク

第14回・第15回 クラス対抗プレゼン大会

【履修上の注意事項】

詳しい説明は、第1回目に行います。全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【評価方法】

出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス－新入生援助集－』専修大学出版社

【参考文献】

適宜指示します。

基礎演習Ⅱ

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅱでは、学生間及び教員とのコミュニケーションの場を深める場であり、読解力、情報収集・情報分析力、プレゼンテーション力などの基礎的なスキルを高めることを目的とする。この演習では、大学生として基本的スキルを身につけて、その成果として、プレゼンテーション大会におけるグループ発表を行う予定としている。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス
第2週～第8週 テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク
第9週～第15週 クラス対抗プレゼン大会

【履修上の注意事項】

出席とグループでの発言内容、参加態度を重視する。全体の3分の1を欠席すると不可とする。

【評価方法】

出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』専修大学出版局
『大学生 学びのハンドブック』世界思想社編集部

【参考文献】

講義時に、適宜指示する。

基礎演習Ⅲ

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、経済に関する文献、新聞記事、雑誌等を講読することで「経済をみる眼」を養っていきます。また、これらの文献を講読することを通じて、文章読解能力やプレゼンテーション能力の向上をはかります。

本演習は、学生が主体的に学ぶことが前提となります。「課題をみつけ→課題に関する情報を収集・整理し→課題解決のための方策を提案する」という作業は、社会のあらゆる場面で要求されます。したがって、本演習においても“自分で調べること”、“自分の意見を述べること”を要求します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション - 講義説明、基礎演習Ⅲの目標設定、アンケート等 -
2	経済学科で学ぶ意義について①
3	経済学科で学ぶ意義について②
4	文献購読① - 文献の選定、担当箇所の割り当て等 -
5	文献購読② - 報告、議論、解説 -
6	文献購読③ - 報告、議論、解説 -
7	文献購読④ - 報告、議論、解説 -
8	文献購読⑤ - 報告、議論、解説 -
9	文献購読⑥ - 報告、議論、解説 -
10	文献購読⑦ - 報告、議論、解説 -
11	グループ調査① - テーマの選定、グループ分け等 -
12	グループ調査② - 資料収集、調査、分析 -
13	グループ調査③ - 資料収集、調査、分析 -
14	グループ調査④ - 報告、質疑応答 -
15	グループ調査⑤ - 報告、質疑応答 -
16	前期のまとめ

【履修上の注意事項】

演習科目のため、原則として皆出席を要求します。

【評価方法】

出席、提出物、受講態度等を勘案して評価する。

【テキスト】

特になし（適宜、資料を配布します）

【参考文献】

特になし

基礎演習Ⅲ

担当教員 宮城 和宏

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

沖縄には様々な課題が存在するが、その理解は表層的なものにとどまっている。その背景には、例えば、経済問題を単純に経済の問題とのみ捉えることがあるように思われる。経済の問題に限らず、沖縄の問題の多くは共通の歴史的な背景をベースに形成されてきているのであり、その理解なしには経済問題をはじめとする沖縄の諸課題を解決することは難しいだろう。この基礎演習では、このような理解の下に、まず沖縄の歴史を通じて現在の沖縄の課題を考えていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週－15週 グループに分かれ、学習内容を報告した後に皆で議論する。

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：4月の開講時に指示する

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス
第2週～5週 考え方、問題意識の設定
第6週～14週 レポート・論文の書き方
第15週 夏休みの課題

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』 専修大学出版局

【参考文献】

『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版
『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

基礎演習Ⅲ

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週－15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方など

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：4月の開講時に指示する

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

21世紀はアジアの時代である。ダイナミックに成長するアジア諸国の成長要因はどのようなところにあるのか、詳細に文献およびデータを分析しながら経済原則を探る。また、所得の向上や豊かさ、更には社会の環境変化等を見ていくと共に、沖縄の現状と比較した場合どうなのかを考えていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 テキストの紹介と演習講義方針
2	第2週 研究分野の選定
3	第3週 第1回発表会
4	第4週 第2回発表会
5	第5週 第3回発表会
6	第6週 第4回発表会
7	第7週 第5回発表会
8	第8週 第6回発表会
9	第9週 第7回発表会
10	第10週 第8回発表会
11	第11週 第9回発表会
12	第12週 第10回発表会
13	第13週 第11回発表会
14	第14週 第12回発表会
15	第15週 まとめ
16	第16週 レポート提出

【履修上の注意事項】

1. 出席は毎回とります。
2. プレゼンテーションを行う。
3. プロジェクターを使用します。

【評価方法】

評価方法は、1. 課題を研究すること。2. プレゼンテーションを行うこと。3. 質疑応答を行う事。4. 出席をきちんとすること等、これらを総合的に数値化して評価を行います。

【テキスト】

渡辺利夫編『アジア経済読本』第4版 東洋経済

【参考文献】

基礎演習Ⅲ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅰ，Ⅱを引き継ぎ、経済問題への関心を深めてもらいます。そして、自分の考えを如何にまとめて、レポートをしていくかを実習していきます。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

恥ずかしがらずに、積極的に対話をしましょう。

【評価方法】

出席、授業への積極姿勢（発表、質問、討論等）、レポート

【テキスト】

特になし、基礎演習Ⅰ，Ⅱで使用したものを参考にする。

【参考文献】

その都度紹介する。

基礎演習Ⅲ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習では、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とします。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を修得していきます。演習は、経済事象を中心として、経済関係の文献の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていきます。

【授業の展開計画】

第1回 ガイダンス

第2回～15回 レポート・論文の書き方、文献の読み方、資料の調べ方など

【履修上の注意事項】

- ・出席と発言内容を重視します。全体の3分の1を欠席すると不可とします。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

出席状況とレポート、発言、発表により総合的に評価します。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』専修大学出版社

【参考文献】

適宜紹介します。

基礎演習Ⅲ

担当教員 平敷 卓

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることが目的です。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨きます。グループワークを中心に行いますが、各自でテーマを持ち、関心を深めていくことを求めます。また、社会の中での問題発見、解決能力を養うため、課外活動も行う予定です。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2回～15回 レポート・論文の書き方、文献の読み方、資料の調べ方など。

※学外での課外活動も行います。

【履修上の注意事項】

出席と発言への積極性、内容を重視します。全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【評価方法】

出席状況とレポート、発言、発表により総合的に評価します。

【テキスト】

テキストは開講時に提示します。

【参考文献】

適宜紹介します。

基礎演習Ⅳ

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、経済に関する文献等を講読することで「経済をみる眼」を養っていきます。また、これらの文献を講読することを通じて、文章読解能力やプレゼンテーション能力の向上を目指します。

本演習は、学生が主体的に学ぶことが前提となります。「課題をみつけ→課題に関係する情報を収集・整理し→課題解決のための方策を提案する」という作業は、社会のあらゆる場面で要求されます。したがって、本演習においても“自分で調べること”、“自分の意見を述べること”を要求します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション ー講義説明、基礎演習Ⅳの目標設定、アンケート等ー
2	大学生活に関する自己評価① ー修学の状況、研究テーマ、将来設計等ー
3	大学生活に関する自己評価② ー修学の状況、研究テーマ、将来設計等ー
4	大学生活に関する自己評価③ ー修学の状況、研究テーマ、将来設計等ー
5	沖縄経済に関するグループ調査① ーテーマ選定、グループ分け、構成案等の検討ー
6	沖縄経済に関するグループ調査② ーデータ収集、調査等ー
7	沖縄経済に関するグループ調査③ ーデータ収集、調査等ー
8	グループ調査中間報告 ー目次、構成案、問題意識、予想される結論等ー
9	沖縄経済に関するグループ調査④ ーパワーポイント資料作成等ー
10	沖縄経済に関するグループ調査⑤ ーパワーポイント資料作成等ー
11	グループ調査報告① ーパワーポイントを用いた報告ー
12	グループ調査報告② ーパワーポイントを用いた報告ー
13	レポートの書き方① ーグループ調査、個人報告等を踏まえて、今後の課題を抽出ー
14	レポートの書き方② ーグループ調査、個人報告等を踏まえて、今後の課題を抽出ー
15	講義のまとめ①
16	講義のまとめ②

【履修上の注意事項】

演習科目のため、原則として皆出席を要求します。

【評価方法】

出席、提出物、受講態度等を勘案して評価する。

【テキスト】

特になし（適宜、資料を配布します）。

【参考文献】

特になし

基礎演習Ⅳ

担当教員 宮城 和宏

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅲでの学習を受け、今後の沖縄の方向性について考えていく。将来、学生が各界のリーダーとして成長できるように広い視点から沖縄経済の今後について議論する。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週－15週 グループごとに学習内容を報告、皆で議論する。

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：後期開講時に指示する

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅲに引き続き、レポートの作成とプレゼンテーション、発展的な討論の仕方を実習する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、レポート、プレゼンテーション、討論の質

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習は、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表などテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週～第15週 レポートの発表、テーマ別グループ発表、グループ間ディベートなど

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況と受講態度、及びレポート、発表内容により総合的に評価する。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』 専修大学出版局

【参考文献】

『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版

『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

基礎演習Ⅳ

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。講義は、経済事象を中心として、経済関係の文書の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていく。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2週～15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方など

【履修上の注意事項】

出席と発言内容を重視する。全体の3分の1を欠席すると、不可とする。

【評価方法】

出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：4月の開講時に指示する

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習では、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とします。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を修得していきます。演習は、経済事象を中心として、経済関係の文献の読み方、レポートの書き方、テーマの設定、問題の設定に応じた情報収集の方法、グループでの発表など基礎演習Ⅰ・Ⅱで使用したテキストも随時参照しながら、演習形式で進めていきます。

【授業の展開計画】

第1回 ガイダンス

第2回～第15回 文献の読み方、資料の調べ方、レポートの発表、テーマ別グループ報告など

【履修上の注意事項】

- ・出席と発言内容を重視します。全体の3分の1を欠席すると不可とします。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

出席状況とレポート、発言、発表により総合的に評価します。

【テキスト】

『知のツールボックス―新入生援助集―』専修大学出版社。

【参考文献】

適宜紹介します。

基礎演習Ⅳ

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

21世紀はアジアの時代である。ダイナミック成長するアジア諸国の成長要因はどのようなところにあるのか、詳細に文献およびデータを分析しながら経済原則を探る。また、所得の向上や豊かさ、更には社会の環境変化等を見ていくと共に、沖縄の現状と比較した場合どうなのかを考えて行く。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 前期に引き続き後期の講義方針
2	第2週 研究分野の選定
3	第3週 第1回発表会
4	第4週 第2回発表会
5	第5週 第3回発表会
6	第6週 第4回発表会
7	第7週 第5回発表会
8	第8週 第6回発表会
9	第9週 第7回発表会
10	第10週 第8回発表会
11	第11週 第9回発表会
12	第12週 第10回発表会
13	第13週 第11回発表会
14	第14週 第12回発表会
15	第15週 まとめ
16	第16週 レポート提出

【履修上の注意事項】

1. 出席は毎回とります。
2. プレゼンテーションを行う。
3. プロジェクターを使用します。

【評価方法】

1. 課題を研究すること。 2. プレゼンテーションを行うこと。 3. 質疑応答を行う事 4. 出席をきちんとすること等、それらを総合的に数値化して評価を行います。

【テキスト】

渡辺利夫編 『アジア経済読本』 第4版 東洋経済

【参考文献】

基礎演習Ⅳ

担当教員 平敷 卓

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることが目的です。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨きます。グループワークを中心に行いますが、各自でテーマを持ち、関心を深めていくことを求めます。また、社会の中での問題発見、解決能力を養うため、課外活動も行う予定です。

【授業の展開計画】

第1週 ガイダンス

第2回～15回 レポート・論文の書き方、文献の読み方、資料の調べ方など。

※学外での課外活動も行います。

【履修上の注意事項】

出席と発言への積極性、内容を重視します。全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【評価方法】

出席状況とレポート、発言、発表により総合的に評価します。

【テキスト】

テキストは開講時に提示します。

【参考文献】

演習中、適宜紹介します。

キャリアデザイン論

担当教員 名嘉座 元一 外部講師10回、専任教員6回

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）形式の講義

PBLとは、「課題解決型授業」のことで、通常の座学中心の講義とは一線を画するものである。まず企業の方から学生にミッション（課題）を出す。それに対して、幾つかのグループに分かれて作業を分担し、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。したがって、プレゼン力、コミュニケーション力が養われ、本格的な就職活動に向けて、自分に相応しい職業や進路を見出すきっかけとなることができる。また、自らの生き方、働き方を実践するために、大学での過ごし方について具体的に考え、行動することができるようになる。

【授業の展開計画】

毎回ゲストを呼ぶ予定

- 1 オリエンテーション
- 2 チームづくりと1シート企画
- 3 企業からのミッション
- 4 チームワークとCIS
- 5 課題解決 (1) ～企業ミッションと課題を探る～
- 6 課題解決 (2) ～課題解決のアプローチ方法～
- 7 課題解決 (3) ～ユニーク発想法～
- 8 課題解決 (4) ～提案の事業プランの作り方～
- 9 中間プレゼンテーション
- 10 プレゼンテーション技術基礎 ～プレゼン本番に向けた企画書のブラッシュアップ～
- 11 課題解決 (5)
- 12 課題解決 (6)
- 13 プレゼン本番前リハーサル
- 14 プレゼン本番
- 15 各チーム企画提案書の振り返り
- 16 自身の学びの振り返り

【履修上の注意事項】

講義内容については初回講義時に知らせるため、履修希望者は初回講義時に必ず確認すること。グループワークが中心となるため、出席を重視するので、休まずに出席すること！最後までやり通すことで力になる。したがって、いい加減な気持ちで取り組まないことが大切。

【評価方法】

出席、グループワークの進め方、プレゼンの結果を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

特にない

【参考文献】

・講義時に指定する。

経営学 I

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、特定業界を事例に取り上げながら、企業とは何か、経営とは何かなどを考えることが目的である。また、大企業や中小企業、経営組織や経営戦略、経営の歴史や現状など幅広く経営学の入門科目として講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）
2	経営学とは何か？
3	規制緩和と企業経営
4	食品企業の経営
5	タバコ企業の経営
6	通信企業の経営
7	道路関係企業の経営
8	中間試験
9	戦争ビジネス① ー軍産複合体を考えるー
10	戦争ビジネス② ー戦争の民営化を考えるー
11	電力企業の経営
12	醸造企業の経営
13	企業経営の理解
14	企業の社会的責任
15	経営学 I のまとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 私語・講義中の携帯電話（スマホを含む）の利用などは禁止である。
- (2) 後期開講の「経営学Ⅱ」との連続履修が望ましい。
- (3) 講義開始30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。

【テキスト】

日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年

【参考文献】

学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。

経営学Ⅱ

担当教員 村上 了太

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、「経営学Ⅰ」の応用科目と位置づける。大企業や中小企業の経営を基礎に、昨今、一部の企業で取り組まれている社会的企業、ソーシャルビジネス、さらには貧困ビジネスやブラック企業などについて触れ、企業の形態や社会貢献の相違などを比較しながら、企業とは何か、経営とは何かという課題に理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）
2	企業の目的、組織、形態
3	ビジネスを理解するための用語解説
4	社会貢献ビジネス
5	社会的企業と公益事業
6	データ比較による企業分析
7	労働と企業
8	中間試験
9	企業の変遷
10	ベンチャービジネス
11	社会的排除と経営学
12	貧困ビジネス、ブラック企業（ブラックバイト）の現状と課題
13	企業の本質
14	社会的企業とNPO
15	経営学Ⅱのまとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

前期開講の「経営学Ⅰ」からの履修が望ましいが、前提とはしない。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。

【テキスト】

日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年

【参考文献】

学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。

経済学史 I

担当教員 梅井 道生

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済の理論は、ある日突然経済学者の脳裏に出現したものではない。それは優れてその時代の歴史的状況に支配されている。現代に生きるわれわれにとって、過去の歴史を知ることが、ある意味で、現代社会の成り立ちを知ることに通じる。そのような意味で、歴史を知ることがきわめて重要である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要説明等、ビデオによるイギリス紹介 (Adam. Smithの生誕地、グラスゴー大学、墓等)
2	アンシャン・レジームと重農学派の成立
3	F. Quesneyの目指したもの
4	F. Quesney『経済表』
5	スコットランド学派とA. Smith
6	A. smithの生涯
7	スコットランド啓蒙と『道徳感情論』
8	『国富論』と分配の法則
9	分業論
10	価値論と分配論
11	生産的労働と不生産的労働
12	D. ricardoの生涯
13	『経済学および課税の原理』の構造
14	価値論と分配論
15	古典派経済学の終焉
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義の範囲が非常に広いため毎回の出席が必要である。
2年次優先。抽選となった場合は経済学科を優先する。

【評価方法】

定期試験、レポート等で評価する。

【テキスト】

開講時に追って指示する。

【参考文献】

開講時に追って指示する。

経済学史Ⅱ

担当教員 梅井 道生

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学史Ⅰでは、主に古典派経済学について学んできた。経済学史Ⅱでは、それ以降の経済学について講義を進めて行く。

ケインズの有名な言葉に、「経済学は、自然科学ではなくて、モラル・サイエンスである」というのがある。経済学史Ⅰで学んだように、重農学派や『国富論』は、自然哲学やモラル・フィロソフィーと不可分といってよいほど密接な関係を持っていた。その後、経済学はその関係性を希薄化する傾向をたどった。

経済学史Ⅱでは、この問題に焦点を当て、講義を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の概要
2	T. R. MalthusとD. Ricardo—穀物法および地金論争
3	T. R. Malthusの『人口論』
4	『経済学原理』
5	古典派経済学の再編—J. S. Mill—
6	J. S. Millの生涯
7	『経済学原理』
8	生産論、分配論、交換論、動態論、社会主義論
9	ドイツとフランスの経済学
10	ドイツロマン主義—F. List—を中心に
11	革命後のフランス—J. B. Say—を中心に
12	新古典派経済学の展開—ケンブリッジの経済学者—
13	A. Marshall 『経済学原理』
14	ケインズ革命の意義
15	J. M. Keynes 『雇用・利子・および貨幣の一般理論』
16	期末試験

【履修上の注意事項】

講義の範囲が非常に広いため、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期試験で評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

必要に応じて、追って指示する。

経済学特別講義 I (経済理論及び政策)

担当教員 一井本 伸

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 集中

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

経済学入門

担当教員 浦本 寛史（他、複数教員）

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学の入門的な内容について学習する。経済学科の専門科目（専任）担当者全員がそれぞれの専門分野の入門的内容ををわかりやすく、かみ砕いて講義することにより、経済学とはどのような分野なのかを直感的に理解してもらいたい。多くの学生が経済学に関心を持てるようになることが本講義の目的である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義計画、成績評価方法、その他について（浦本）
2	入門・ファイナンシャルプランニング（安藤）
3	入門・日本経済論（湧上）
4	入門・経営学（村上）
5	入門・創造産業と経済学（浦本）
6	入門・労働経済学（名嘉座）
7	入門・経済史（梅井）
8	入門・計量経済学（金城）
9	入門・産業組織論（宮城）
10	入門・経済地理（崎浜）
11	入門・国際経済（新垣）
12	入門・企業分析（安藤）
13	入門・社会保障論（長島）
14	入門・地域経済（平敷）
15	入門・公共経済学（比嘉）
16	総括・テストまたはレポート（浦本）

【履修上の注意事項】

私語や携帯電話等、他の受講生に迷惑のかかる行為等は自重し、マナーを守ること。

【評価方法】

テストまたはレポートの成績、出席状況、その他を加味しつつ総合的に評価する。受講生の頑張りを評価したい。

【テキスト】

特に、指定しない

【参考文献】

経済史入門

担当教員 梅井 道生

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人類の誕生とともに、人々は経済活動を営んできた。それはまず、衣？食？住に関する基本的なものであった。その後人類は、文化を築き、文明を発達させてきた。経済史とは、文字通り経済の歴史を研究する学問であるが、だからといって古代社会から現代までを対象にするわけではない。なぜかといえば、歴史はある意味で記録でもあるから、文字の発達を前提にするからである。したがって、この講義では、中世から近世にかけてのヨーロッパ経済史を対象に、近代社会がいかにして成立したのかを中心に考えて行きたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価方法などの説明
2	中世の農業の特徴
3	中世都市の発達
4	商業の発達
5	貿易の発達
6	重商主義政策の成立
7	中世封建体制の崩壊
8	近代議会制度の成立
9	イギリスの状況
10	フランスの状況
11	ドイツの状況
12	アメリカの独立
13	世界市場の成立
14	イギリスにおける農村工業の発達
15	産業革命前夜
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実を積み重ねて全体を理解するという性格の講義であるから、毎回の出席が望ましい。抽選となった場合は、1年次優先予定。

【評価方法】

試験、レポート等による。

【テキスト】

イギリスで求めた経済史のテキストをプリントして配布予定。したがってある程度の英語力が必要。

【参考文献】

開講時に指示する。

経済社会学

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、現代の我々が抱える社会問題を経済学的視点から、どのような解を提示できるのかを考える機会を提供する。講義の前半ではこれまでの経済学説の系譜を読み解きつつ、現代経済社会を歴史の中に位置付けつつ、今後の経済社会のあり方を目指す学問的試みについて紹介する。講義の後半では具体事例（格差問題等）を取り上げながら、それらを解決するためのアプローチについて紹介する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、授業評価方法等について
2	人間と社会と自然
3	ポリティカル・エコノミーとは？—経済史概説
4	資本主義社会への理解
5	国家と経済①
6	国家と経済②
7	企業と労働①
8	企業と労働②
9	前半まとめ
10	グローバル化と福祉国家の展望
11	福祉国家の労働政策
12	社会保障制度の現状と課題
13	格差社会—雇用、貧困、地域間格差
14	包括的な社会の構築に向けて
15	講義のまとめ
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

基本的な受講マナーを守ること（私語、携帯電話等）。

【評価方法】

期末テスト 70% フィードバックペーパー（小テスト込） 30%
 3分の2以上の欠席は、期末テストの受験資格を失います。
 欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。

【テキスト】

配布資料により講義を行います。

【参考文献】

講義中適宜紹介します。

経済情報処理 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、統計のソフトウェアを利用し、マイクロ経済分析と密接な関連のあるマーケティング・サイエンスを中心に、購買データや時系列データなど様々なデータを分析する方法について学びます。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 Rプログラミング(データ入出力)
- 3 Rプログラミング(簡単なプログラミング)
- 4 重回帰分析
- 5 市場反応の分析と普及の予測
- 6 市場反応の分析と普及の予測 (演習)
- 7 消費者の購買モデル
- 8 ランク・ロジットモデルによる順序データの分析 (演習)
- 9 セグメンテーションと潜在クラスモデル
- 10 セグメンテーションと潜在クラスモデル (演習)
- 11 消費者間の異質性と階層ベイズモデル
- 12 消費者間の異質性と階層ベイズモデル (演習)
- 13 持続期間・生存時間データ解析
- 14 持続期間・生存時間データ解析 (演習)
- 15 まとめ
- 16 提出

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【テキスト】

【参考文献】

里村卓也, 金明哲 (編集) 「マーケティング・サイエンス」 共立出版 (2010)
椿広計 岩崎正和 「Rによる健康科学データの統計分析」 朝倉書店 (2013)

経済情報処理Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現在では、パソコンを駆使しインターネットを自由自在に使うことで、様々な情報を集めたりすることが当たり前になってきている。本講義では、経済の調査・研究のためインターネットとコンピュータを活用してデータを加工・分析する方法を学ぶ。具体的には、回帰分析や分散分析、因子分析を学んだあとに、経済統計によく用いられる時系列分析などの方法について学ぶ。特に、主にエクセルやRというソフトウェアを用いて、できるだけ分かりやすく解説し、実際に利用して多くの分析を体験することにより、データ分析の手法を学ぶ実践的な内容になる。

【授業の展開計画】

1. 分散 標準偏差、相関係数の算出とRの導入
2. 回帰分析（回帰モデルの考え方）
3. 回帰分析（単回帰モデルと重回帰モデルの構築と推計）
4. 分散分析I（分散分析の考え方）
5. 分散分析II（1要因による分散分析と2要因による分散分析）
6. 因子分析によるデータ解析（因子分析の考え方）
7. 因子分析によるデータ解析（データを用いた推計）
8. Rによる時系列データの扱い
9. 時系列データを用いた回帰分析（考え方と推計）
10. 定常時系列分析（時系列モデルの考え方と自己相関）
11. 定常時系列分析（ARモデル、MAモデル、ARIMAモデル）
12. 非定常時系列分析（ARCHモデルとGARCHモデル）
13. 多変量時系列分析（VARモデル）
14. 共積分分析（単位根と共積分）
15. まとめとレポートの解説

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出物（論文・レポートなど）、出席回数

【テキスト】

【参考文献】

テキストは特に使用しない。その都度、資料等を配布する

経済数学 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、今日の経済学を考えるうえでは欠かせない、個人意思決定の理論および、複数の個人・企業の意思決定の理論としてゲーム理論の数理を学びます。それぞれ問題や事例を取り上げて説明していきます。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 意思決定：バイアス
- 3 意思決定：確率と統計
- 4 意思決定：リスク下の意思決定
- 5 意思決定：不確実性下の意思決定
- 6 意思決定：幸福感
- 7 中間テスト
- 8 ゲーム理論：ゲーム理論とは
- 9 ゲーム理論：非協力ゲーム・戦略形ゲーム
- 10 ゲーム理論：非協力ゲーム・ナッシュ均衡
- 11 ゲーム理論：非協力ゲーム・展開ゲーム
- 12 ゲーム理論：非協力ゲーム・チェーンストアパラドックス、繰り返しゲーム
- 13 ゲーム理論：不完全情報ゲーム
- 14 ゲーム理論：協力ゲーム
- 15 ゲーム理論：その他のトピックス、まとめ
- 16 最終レポート

【履修上の注意事項】

学生の理解や進捗状況により、進度が変わることがあります。

【評価方法】

中間テストおよびレポートをもとに判断します

【テキスト】

【参考文献】

武藤滋夫「ゲーム理論入門」日経新聞社

経済数学Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、消費者や企業の意思決定など経済学の様々な場面で利用されている「最適化」について学びます。そのために基礎となる微分について復習を前半で行います。後半でこれらを用いて最適化問題を解いていきます。演習を通じて個別にフォローします。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 集合論・関数の復習
- 3 微分積分の復習
- 4 微分積分：微分と関数の極値
- 5 微分積分：関数の展開
- 6 微分積分：不定積分・定積分
- 7 微分積分：偏微分
- 8 微分積分：テーラーの公式と極値
- 9 微分積分：ベクトル微分と条件付き極値問題
- 10 中間テスト
- 11 最適化：目的関数、凸関数、凹関数
- 12 最適化：古典的方法
- 13 最適化：ラグランジュ未定乗数法
- 14 最適化：非線形計画法
- 15 動学最適化の紹介：まとめ
- 16 レポート

【履修上の注意事項】

ノートを必ずとってください。

【評価方法】

中間テストとレポートにより判断する

【テキスト】

【参考文献】

A.C. チャン, K. ウェインライト「現代経済学の数学基礎<上><下>」シーエーピー出版; 第4版
西村清彦「経済学のための最適化理論入門」東京大学出版会

経済政策総論 I

担当教員 平敷 卓

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、経済政策論の基礎として経済政策の歴史的展開の理解に主眼を置き、戦後日本の経済政策を事例に講義を行う。前半では、資本主義の発展と経済政策との関係を、講義後半では、現在展開されている日本の経済政策各分野のトピックテーマを取り上げ、今後の経済政策動向について理解を得ることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、授業評価方法等について
2	経済政策とは何か
3	資本主義の発展と経済政策
4	現代資本主義の形成と経済政策
5	現代資本主義の国際的確立と経済政策
6	経済政策と数量分析
7	経済政策の現代理論
8	グローバル化の進展と経済政策
9	日本経済の構造転換と構造改革路線
10	財政政策の目標と手段 (1)
11	財政政策の目標と手段 (2)
12	金融政策の目標と手段 (1)
13	金融政策の目標と手段 (2)
14	経済政策各論—福祉政策、地域経済政策等
15	講義のまとめ
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

基本的な受講マナーを守ること（私語、携帯電話等）。

【評価方法】

期末テスト 70% フィードバックペーパー（小テスト込） 30%

3分の2以上の欠席は、期末テストの受験資格を失います。

欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。

【テキスト】

配布資料により講義を行います。

【参考文献】

田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編『現代の経済政策【第4版】』有斐閣ブックス
他、講義中に適宜提示します。

経済政策総論Ⅱ

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済活動のグローバル化の進展や人口減少、少子高齢化など、わが国の経済社会を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした経済社会環境の変化は、同時に様々な経済問題を発生させます。新聞やテレビ等でも経済問題が取り上げられない日はありません。経済政策論は、こうした現実に行き起きている様々な経済問題に対して、課題解決のための政策のあり方を提示していく学問です。

本講義では「成長」「分配」「安定」をキーワードに、政府が実施する経済政策の理論的根拠を学びつつ、実際の経済政策の効果を検証していきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義のキーワード、講義アンケート -
2	日本経済概観 - データでみる日本経済、地域経済 -
3	幸福と経済 - GDPと幸福度、経済力と人間開発指数、国民総幸福量のはなし -
4	経済政策の目標 - 経済政策を動かす主役、経済政策の3つの柱 -
5	成長政策① - 成長政策の基本的な考え方：資本、労働、技術 -
6	成長政策② - 市場の機能、競争政策、市場の失敗への対応 -
7	安定化政策① - 安定化政策の基本的な考え方：財政政策と金融政策 -
8	安定化政策② - 財政政策：有効需要の原理、財政再建と経済成長 -
9	安定化政策③ - 金融政策：中央銀行の役割 -
10	再分配政策① - 再分配政策の基本的な考え方：自由主義とパターナリズム -
11	再分配政策② - セーフティネットとしての再分配政策、わが国の社会保障制度の特徴と課題 -
12	再分配政策③ - わが国の再分配政策：諸外国との比較（所得格差、社会保障負担、医療等） -
13	地域経済と政策① - 地域政策の目的、国と地方の財政関係、公共投資と地域経済 -
14	地域経済と政策② - 沖縄の振興開発と中央政府の地域政策 -
15	本講義のまとめ、期末テスト説明
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義の終わりに小テスト（不定期）を実施する場合があります。

【評価方法】

期末テスト、レポート、小テスト、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

【テキスト】

適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布します。

【参考文献】

井堀利宏（2003）『経済政策』新世社
 飯田泰之（2010）『ゼロから学ぶ経済政策』角川書店

経済地理 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理 I では、古典的な経済立地に関する諸理論の概要を通して、経済地理学の研究方法と視角、さらに諸産業（農業・工業）などの立地特性について、過去と現在を比較しながら検討する予定である。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 農業立地の理論
3. 農業立地論①－チューネンの農業立地論－
4. 農業立地論②－チューネンモデルの事例－
5. 農業立地論③－現代日本の農業立地－
6. 沖縄県の農業
7. 沖縄県離島部の農業立地
8. 工業立地論①－ウェーバーの工業立地論－
9. 工業立地論②－ウェーバー理論の実際－
10. 工業立地論③－ウェーバー以後の工業立地論－
11. 工業立地論④－日本の工業地域－
12. 工業の立地政策①－日本の工業立地の現状－
13. 工業の立地政策②－ヨーロッパ・北アメリカ各国の工業政策－
14. 工業の立地政策③－中国、東南アジア各国の工業政策－
15. 農業立地論・工業立地論による空間構造の把握
16. 試験

【履修上の注意事項】

出席を重視する。講義中は私語、遅刻や途中退席はないように注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席点とレポート、期末試験などで総合的に判断する。期末試験は本・ノート・配布資料など、持ち込みは「不可」で、記述形式で行う予定。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。
ディビット・グリッグ（山本正三ほか訳）：『農業地理学入門』原書房。

経済地理Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理Ⅱでは、中心地理論とオフィスの立地を中心とする都市・商業空間の編成過程を検討する。さらに、近年の観光地形成に関わる問題点を比較考察し、沖縄の観光地の特性を検討したい。

【授業の展開計画】

1. 人文地理学・経済地理学の概要
2. 中心地の立地理論①－クリスタラーの中心地研究－
3. 中心地の立地理論②－中心地理論に関する実証的研究－
4. 中心地の立地理論③－商業・サービス業の立地と中心地理論－
5. 中心地の立地理論④－オフィス立地の理論と実際－
6. 企業の立地戦略①－立地選択－
7. 企業の立地戦略②－立地適応－
8. 企業の立地戦略③－立地創造－
9. 企業の立地戦略④－産業集積と立地－
10. 企業の立地戦略⑤－立地ウォーズ－
11. 観光産業と地域①－世界の観光地域－
12. 観光産業と地域②－ヨーロッパ地域の観光地域－
13. 観光産業と地域③－日本の観光地域－
14. 観光産業と地域④－沖縄県の観光－
15. 観光産業と地域⑤－沖縄県島嶼部の観光－
16. 試験

【履修上の注意事項】

出席を重視する。私語、遅刻や途中退席はないよう注意すること。

【評価方法】

成績評価は出席や試験、講義時の作業物の提出や講義内容の感想および講義への参加姿勢で総合的に判断する。期末試験は、本・ノート・配布資料などの持ち込みは「不可」で、記述形式で行う。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

- 富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。
川端基夫（2008）『立地ウォーズ 企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』新評論。

経済データ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、調査・研究のための経済データの見方、扱い方について学ぶことを目的とする。調査研究は、知りたい事柄を明らかにするために調べることであり、何か分からないことや判断を下したり、行動を起こしたりするために必要となる情報を収集し、体系的に整理することである。したがって、経済データを見るためには、まず、調査の目的を明確にし、必要に応じたデータを効率的に集め、次に統計の癖や限界を知ること、観測されたデータを鵜呑みにするのではなく、背後にある要因について十分に注意を払う必要がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	経済分析の目的
3	経済分析における問題意識、問題形成
4	様々な経済データ
5	データ処理Ⅰ（平均、最大、最小、分散について）
6	データ処理Ⅱ（年平均伸び率、構成比の計算など）
7	経済財政白書など白書を用いたデータ分析
8	マクロ経済データ分析Ⅰ（GNPなど）
9	マクロ経済データ分析Ⅱ（各国比較、貧しい国と豊かな国）
10	県民所得のデータ分析（都道府県比較、沖縄は貧しい県か？）
11	所得格差関連のデータ（学力格差と所得格差の関係 沖縄の学力が低いのはなぜ？）
12	簡単な相関分析Ⅰ（相関関係とは）
13	簡単な相関分析Ⅱ（アイスクリームの売り上げと気温は関係あるか）
14	市町村の社会経済データⅠ（人口、市町村民所得、産業構造）
15	市町村の社会経済データⅡ（社会指標など）
16	テーマ分析とレポート提出要領

【履修上の注意事項】

講義の最後にはテーマを与え、レポートを提出する

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出と試験を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とする。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

特になし。その都度演習用の素材は提供する。

計量経済学 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、統計学やパソコンを用いたデータ処理の手法をもとに経済学に関する具体的なテーマを取り上げ、応用およびデータ処理ができるようにします。より具体的には、時系列分析や、消費者のモデルについて概念的に学びながら、実際にソフトウェアで分析を行います。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 Rによる重回帰分析
- 3 Rによる時系列データの扱い
- 4 定常時系列分析
- 5 定常時系列分析
- 6 ARCHとGARCH
- 7 多変量時系列
- 8 非定常時系列
- 9 非定常時系列
- 10 パネル分析
- 11 ベイズ統計入門
- 12 パネルデータの統計モデル(1)一階層ベイズ回帰モデル
- 13 パネルデータの統計モデル(2)一階層ベイズ離散選択モデル
- 14 動学ベイズモデル
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況とレポート及び毎回の課題提出を総合的に評価する。
全体の3分の1を欠席すると不可とします。

【テキスト】

【参考文献】

計量経済学Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人々は、消費、学校、職場など数多くの場面で選択を行っています。本講義では、ミクロ経済における実証を視野にいれながら、人々がモノを選んだりすることをどのようにモデル化し、それらを統計的に実証していくかについて勉強します。

【授業の展開計画】

- 1 導入
- 2 離散選択モデル
- 3 2値選択モデル
- 4 2値選択モデルの推定1
- 5 2値選択モデルの推定2
- 6 2値選択モデルの最近の動向
- 7 多選択のロジットモデル
- 8 多選択のロジットモデル：条件付きロジットモデル、入れ子型ロジットモデル
- 9 多選択のロジットモデル：階層モデル
- 10 順序ロジットモデル
- 11 計数データのモデル1
- 12 トービットモデル
- 13 持続時間モデル
- 14 演習・最終レポート解説
- 15 最終レポート

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、中間テスト、レポートで判断。

【テキスト】

【参考文献】

William H. Greene 「グリーン計量経済分析」 エコノミスト社

公共経済学

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

公共経済学は、政府の経済活動を分析する学問です。市場機構は、資源の効率的な配分を達成しますが、他方で市場機構に任せておくと「企業の独占」や「公害」等の問題（市場の失敗）も発生します。本講義では、こうした「市場の失敗」を是正するための政府の役割について学びます。

政府の経済活動を分析する学問として、他に財政学や経済政策論があります。両科目と本講義は相互に関連しており、理論的な枠組みもほとんど同じです。しかし、公共経済学は、「政治の経済分析」や「政府による規制」などのトピックを扱うという点で、両科目とは講義内容が異なります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と公共部門、講義アンケート -
2	公共経済学とは何か - 市場と政府（概論） -
3	市場メカニズムのはなし① - 需要と供給、市場経済の効率性 -
4	市場メカニズムのはなし② - 市場の失敗と政府の失敗 -
5	公共財① - 公共財の概念、「ただ乗り」の問題、「ただ乗り」問題の対策 -
6	公共財② - 公共財の最適供給、地方公共財 -
7	選挙と投票行動① - 中位投票者定理、投票のパラドックス -
8	選挙と投票行動② - 有権者の政治行動 -
9	政党と政策・官僚行動 - 政党の政権獲得行動、官僚の予算獲得最大化行動 -
10	政府による規制 - 参入規制とレント、価格規制がもたらす弊害 -
11	外部性 - 外部性とは何か、外部経済と外部不経済、コースの定理 -
12	公共政策の評価 - 政策評価の必要性、政策評価手法の紹介 -
13	わが国における公共部門の諸課題① - 課税、年金、財政赤字等 -
14	わが国における公共部門の諸課題② - 地方公共団体の課題～沖縄県のケース～
15	本講義の総括、期末テスト説明
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義の終わりに小テスト（不定期）を実施する場合があります。

【評価方法】

期末テスト、小テスト、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

【テキスト】

適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布します。

【参考文献】

井堀利宏（2000）『基礎コース公共経済学』新世社
 上村敏之（2011）『公共経済学入門』新世社

国際経済論 I

担当教員 一当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国の経済活動の領域は拡大し、もはや一国では経済が成り立たない。国境を越えたさまざまな経済活動、すなわち貿易・国際投資・資金移動・人の移動・多国籍企業などの動きを通じて、日本経済の立ち位置を考察する。さらには、貿易の基礎理論、為替変動のメカニズム、国際収支、直接投資等の国際経済の理解を深める経済理論を学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	グローバル経済と日本
3	グローバル化と日本経済構造
4	世界経済の潮流
5	戦後の国際経済
6	固定相場制から変動相場制へ
7	1980年代以降の世界経済
8	中間テスト
9	為替レートと日本経済
10	外国為替市場と為替レート
11	為替投機
12	外国為替市場への介入
13	為替レートの決定と変動の理論
14	現在における多様な通貨制度
15	総括
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもち、テスト解答にはテキストを購入し、精読することが要求される。

【評価方法】

1000点満点。出席点：600点、テスト400点(中間・期末、各200点満点)。テストと出席状況、授業参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

『ゼミナール国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社出版)。テキスト購入は必須。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、『戦後世界経済史』 猪木武徳著 (中公新書)など。

国際経済論Ⅱ

担当教員 一当銘 学

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国際経済論Ⅰを参照してください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Introductionと前期のReview
2	国際化するマクロ経済問題
3	国際収支とはなにか
4	国際マクロ経済学
5	同上
6	拡大する国際金融取引
7	資本移動のメカニズム
8	累積債務問題
9	中間テスト
10	貿易の基礎理論
11	通商問題の変遷
12	産業構造の調整問題
13	規模の経済性のもとの貿易
14	直接投資の理論
15	拡大する直接投資とインパクト
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

国際経済論Ⅰを参照してください。

【評価方法】

国際経済論Ⅰと同様に行います。

【テキスト】

国際経済論Ⅰと同等のテキスト使用する。

【参考文献】

『国際金融入門』小川英治著（日経文庫）、『WTO 世界貿易のゆくえと日本の選択』村上直久著（平凡社新書）など。

産業政策論

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、政府が行う経済政策の一つである「産業政策」について学びます。産業政策とは、一国の産業間の資源配分に介入することで、その国の経済厚生に影響を与える政策のことです。戦後、わが国では、特定産業に対する「税制面の優遇措置」や輸入制限による「国内産業保護政策」等の産業政策が行われてきました。本講義では、こうした産業政策について歴史的な考察を行うとともに、電力産業等の個別産業政策の事例を取り上げながら、わが国の産業政策の特徴を学びます。また、講義の後半（12回以降）では、わが国の地域産業政策（特に沖縄県）について検討を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション - 講義の進め方、関連講義の紹介と本講義の位置付け、講義アンケート -
2	日本経済概観 - データでみる日本経済～諸外国との比較から -
3	産業政策とは何か - 産業政策の定義、なぜ産業政策が必要なのか、市場の失敗と政府の失敗 -
4	産業政策の理論と戦略① - 幼稚産業保護論、動学的規模の経済 -
5	産業政策の理論と戦略② - 輸出ペシミズム論、輸入代替、「外向き」の開発戦略 -
6	戦後日本の産業政策① - 復興期 -
7	戦後日本の産業政策② - 高度成長期、安定成長期 -
8	戦後日本の産業政策③ - バブル経済の崩壊、21世紀の産業政策 -
9	個別産業政策の事例① - 電力産業 -
10	個別産業政策の事例② - 航空産業 -
11	個別産業政策の事例③ - 自動車産業 -
12	地域産業政策① - 地域産業政策とは何か、わが国の地域産業の現状 -
13	地域産業政策② - 国土の均衡発展と地域産業、産業の立地と地域経済 -
14	地域産業政策③ - 沖縄における地域産業政策 -
15	本講義のまとめ、期末テスト説明
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義の終わりに小テスト（不定期）を実施する場合があります。

【評価方法】

期末テスト、小テスト、出席状況などを勘案し、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布します。

【参考文献】

三菱総合研究所（2006）『日本産業読本』東洋経済新報社
香西泰（2001）『高度成長の時代』日本経済新聞社

産業組織論 I

担当教員 宮平 栄治

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

産業組織論は、カルテルや独占企業などの競争市場の弊害の対策や理論化から誕生しています。そのため現実志向的で政策思考的な学問分野です。理論面では、ミクロ経済学、計量経済学やゲーム理論の知識を利用して産業組織や企業行動を分析します。産業組織論 I では、産業組織論の誕生の背景や古典的産業組織論について学びます。

【授業の展開計画】

- 第1講 産業組織論とは
- 第2講 古典的産業組織論の成立とSCPパラダイム
- 第3講 SCPパラダイムへのシカゴ学派の批判
- 第4講 新産業組織論への発展
- 第5講 完全競争市場
- 第6講 不完全競争市場
- 第7講 消費者行動
- 第8講 費用と企業行動
- 第9講 経済厚生
- 第10講 独占企業の価格設定と非効率性
- 第11講 価格差別化の手段と効果
- 第12講 市場分割による価格差別
- 第13講 二部料金制度
- 第14講 自然独占
- 第15講 公正報酬率規制とアバーチ・ジョンソン効果
- 第16講 期末テスト

【履修上の注意事項】

予習や復習を行い、疑問点があれば、気軽に質問して下さい。産業組織に関するトピックスを紹介し、産業組織論との関連を説明する場合があります。そのため、シラバス通り進まない場合もあります。予めご了承下さい。

【評価方法】

評価方法は以下の2方法で行います。

- レポート 50%
- 期末テスト 50%
- 合計 100%

【テキスト】

泉田成美・柳川隆著『プラティカル 産業組織論』、有斐閣、2011年、2052円

【参考文献】

長岡貞男・平尾由紀子著『産業組織の経済学－第2版－』、日本評論社、2013年、3499円
青木昌彦・伊丹敬之著『企業の経済学』、岩波書店、1985年、2808円

産業組織論Ⅱ

担当教員 宮平 栄治

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

産業組織論Ⅱでは、産業組織論Ⅰで学んだ古典的産業組織論を基礎に、現実面と政策面を学びます。具体的には、独占の形成と弊害、カルテルの形成と弊害、独占禁止法などの時代背景、理論、成果を学びます。

【授業の展開計画】

- 第1講 インセンティブ規制
- 第2講 参入の経済効果
- 第3講 コンテストブル市場理論
- 第4講 参入規制の経済効果と規制緩和
- 第5講 ゲーム理論とは
- 第6講 ナッシュ均衡
- 第7講 寡占市場の価格と生産量
- 第8講 クールノーの寡占市場
- 第9講 シュタッケルベルクの寡占市場
- 第10講 製品差別化財のベルトラン競争
- 第11講 カルテル
- 第12講 市場支配力と測定
- 第13講 合併と企業結合規制
- 第14講 戦略的行動と市場の独占化
- 第15講 垂直的統合と制限
- 第16講 期末テスト

【履修上の注意事項】

予習や復習を行い、疑問点があれば、気軽に質問して下さい。産業組織に関するトピックスを紹介し、産業組織論との関連を説明する場合があります。そのため、シラバス通り進まない場合もあります。予めご了承下さい。

【評価方法】

評価方法は以下の2方法で行います。
 レポート50%
 期末テスト50%
 合計100%

【テキスト】

泉田成美・柳川隆著『プラティカル 産業組織論』、有斐閣、2011年、2052円

【参考文献】

M.E. ポーター著、土岐・中辻・小野寺訳『競争優位の戦略』、ダイヤモンド社、1985年、8424円
 ポール・ミルグロム／ジョン・ロバーツ著、奥野他訳『組織の経済学』、NTT出版、1997年、5940円

財政学 I

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態

単位数 0

【授業のねらい】

私たちの日々の生活は政府の活動によって支えられています。政府の活動領域は経済の発展とともに、量的にも質的にも大きく変化しており、近年では、特に、年金、医療といった社会保障や公共投資など、多くの批判にさらされています。

この授業では、財政に関する理論・制度・政策について取り上げ、現在、私たちが直面している経済社会のさまざまな課題に対し、政府の役割と機能を考える力を養い、財政問題における課題と解決策について自分なりの意見を持てるようにします。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション：国民経済と財政--財政とは何か
- 第2回 財政の機能・役割：市場社会における財政の役割は何か、財政はどのような機能をもつのか
- 第3回 予算制度①：予算は財政をどのようにコントロールしているのか
- 第4回 予算制度②：予算は憲法、法律でどのように規定されているのか
- 第5回 予算制度③：予算はどのような機能をもつのか
- 第6回 予算制度④：予算はどのように決定され、執行されるのか
- 第7回 予算制度⑤：第二の予算といわれる財政投融资はどのような役割・機能をもつのか
- 第8回 租税の意義と原則①：租税はなぜ必要なのか・租税の基本的な原則はどのようなものか
- 第9回 租税の意義と原則②：租税は最終的に誰が負担するのか・租税はどのように分類できるのか
- 第10回 租税制度①：所得税はどのようなしくみか(1)
- 第11回 租税制度②：所得税はどのようなしくみか(2)
- 第12回 租税制度③：法人税はどのようなしくみか
- 第13回 租税制度④：消費税はどのようなしくみか(1)
- 第14回 租税制度⑤：消費税はどのようなしくみか(2)
- 第15回 復習・総括
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回の講義に授業の進め方や成績評価について説明します。
- ・ミクロ経済学・マクロ経済学を履修済み、もしくは履修中であることが望ましいです。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の国・地方の財政問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

講義回数の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。出席、授業内小テスト等の平常点、課題レポート、期末試験で総合評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。

【参考文献】

- ・神野直彦. 2007年. 『財政学』改訂版. 有斐閣.
- ・重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編. 2009年. 『Basic現代財政学』第3版改訂版. 有斐閣.
- ・『図説日本の財政』最新版. 東洋経済新報社.

財政学Ⅱ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

私たちの日々の生活は政府の活動によって支えられています。政府の活動領域は経済の発展とともに、量的にも質的にも大きく変化しており、近年では、特に、年金、医療といった社会保障や公共投資など、多くの批判にさらされています。

この授業では、財政に関する理論・制度・政策について取り上げ、現在、私たちが直面している経済社会のさまざまな課題に対し、政府の役割と機能を考える力を養い、財政問題における課題と解決策について自分なりの意見を持てるようにします。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 公債①：公債はどのような種類があるのか
- 第3回 公債②：公債発行にはどのような経済効果があるのか
- 第4回 公債③：公債発行・管理はどのように行われているのか
- 第5回 財政政策①：財政政策はどのような意義があるのか
- 第6回 財政政策②：財政政策はどのような効果があるのか
- 第7回 政府支出①：政府が提供する財・サービスとはどのように定義できるのか
- 第8回 政府支出②：政府支出を効率的に行うためにはどのような方法があるのか
- 第9回 社会保障①：社会保障はどのような機能があるのか
- 第10回 社会保障②：日本の公的年金、公的医療保険制度はどのようなものか
- 第11回 社会保障③：日本の所得保障の制度はどのようなものがあるのか
- 第12回 地方財政①：国と地方の財政はどのように関係しているのか
- 第13回 地方財政②：日本の国と地方の財政関係はどのようになっているか(1)
- 第14回 地方財政③：日本の国と地方の財政関係はどのようになっているか(2)
- 第15回 復習・総括
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回の講義に授業の進め方や成績評価について説明します。
- ・財政学Ⅰを履修済みであることが望ましいです。
- ・ミクロ経済学・マクロ経済学を履修済み、もしくは履修中であることが望ましいです。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の国・地方の財政問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

講義回数の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。出席、授業内小テスト等の平常点、課題レポート、期末試験で総合評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。

【参考文献】

- ・神野直彦. 2007年. 『財政学』改訂版. 有斐閣.
- ・『図説日本の財政』最新版. 東洋経済新報社.
- ・重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編. 2009年. 『Basic現代財政学』第3版改訂版. 有斐閣.
- ・神野直彦・小西砂千夫. 2014年『日本の地方財政』有斐閣.

社会思想史

担当教員 梅井 道生

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

人間の基本的な生活単位は、家庭生活であるが、外的な活動は社会的活動として行われる。しかもこの活動は、一定のルールに基づいているのである。しかし、このルールも首尾一貫したものではなく、時代背景が変われば変わっていくものなのである。時代背景の背後にあるもの、それが社会思想に他ならない。

したがって、歴史を真に理解するためには、歴史的事実だけを知るのではなく、時代の思想も併せて理解する必要がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1 社会思想とは何か。開講に当たっての諸注意
2	2 ルネッサンス的人間の社会思想
3	3 マキャヴェリの国家観
4	4 トーマス・モアと『ユートピア』
5	5 職業人の社会思想
6	6 ルネサンスと宗教改革
7	7 マルチン・ルターの宗教改革
8	8 ジョアン・カルビンの宗教改革
9	9 啓蒙的人間の社会思想
10	10 イギリス、スコットランド啓蒙
11	11 フランス啓蒙思想
12	12 現実的人間の社会思想 ーアダム・スミスと『国富論』
13	13 社会的人間の社会思想 ロバート・オーエン、サン・シモン
14	14 マルクス主義の成立
15	15 マルクス以降の社会思想
16	16 期末試験

【履修上の注意事項】

講義の範囲が非常に広いため、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期試験およびレポート等で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献】

必要があれば、講義の時に指示する。

社会保障論

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

少子高齢化の進行をはじめとして社会経済状況が大きく変化する中、国民生活の安心を確保するために、社会保障制度の改革が頻繁に行われています。

この授業では、社会保障制度の存在理由、社会保障制度全体に関する議論に加え、主として、日本の年金・医療・介護・福祉などの個別の社会保障制度を解説します。少子高齢化をはじめとする社会・経済のさまざまな変化に対応できる社会保障制度のあり方について考える力を養い、自分なりの意見を持てるようにします。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション：成熟化社会における社会保障
- 第2回 少子・高齢化社会と日本経済
- 第3回 社会保障制度の機能と役割
- 第4回 日本の社会保障制度の概要、日本の社会保障関係費の動向
- 第5回 年金①：公的年金の歴史・現行年金制度の概要
- 第6回 年金②：高齢者世帯の生活実態と公的年金給付の現状
- 第7回 医療①：医療保障制度の仕組み
- 第8回 医療②：国民医療費の動向と医療の経済分析
- 第9回 労働：労働者に関する社会保障
- 第10回 介護：高齢者関係の社会福祉と介護保険
- 第11回 子育て：児童向け・子育て支援関連の社会保障制度
- 第12回 貧困：低所得者に対する社会保障
- 第13回 福祉：社会福祉と福祉サービス
- 第14回 所得格差と貧困
- 第15回 総括
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回の講義に授業の進め方や成績評価について説明します。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の国・地方の社会保障に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

講義回数の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。出席、授業内小テスト等の平常点、課題レポート、期末試験で総合評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。

【参考文献】

- ・駒村康平．2011年．『福祉の総合政策』新訂五版．創成社．
- ・社会保障入門編集委員会編．2015年．『社会保障入門2015』．中央法規出版．
- ・椋野美智子・田中耕太郎．2015年．『はじめての社会保障』第12版．有斐閣．

集落地理論 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

集落地理論 I では、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を盛り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。

【授業の展開計画】

- 1 村落地理学の研究史
- 2 村落と地図①－地形図の基礎－
- 3 村落と地図②－地形図の利用方法－
- 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－
- 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－
- 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－
- 7 村落の景観①－景観概念－
- 8 村落の景観②－沖縄村落の景観－
- 9 村落の景観③－景観研究の事例－
- 10 村落の景観④－景観調査の方法と実践－
- 11 村落の景観⑤－景観の政治性－
- 12 村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－
- 13 村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－
- 14 村落の社会構造③－村落社会調査の方法と実践－
- 15 村落景観と社会組織
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。課題提出と出席点を重視するので注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席点により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

仲松弥秀著『神と村』 梟社
田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社

集落地理論Ⅱ

担当教員 濱里 正史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

証券市場論 I

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融市場における重要な市場が、証券市場です。

証券市場では、株式や国債・社債等が取引されています。

証券市場論は、主に株式の評価方法・投資尺度について学びます。

「預金しようか、それとも株式か」

「株を選ぶとき、何を基準にすればいいのか」という疑問に対するヒントも得られます。

銀行員に求められている知識（投資信託・NISA）を授業で学ぶことができます。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 投資（1）将来価値・現在価値
- 3 投資（2）年金の価値
- 4 投資（3）NPV、投資判断
- 5 証券投資（1）株式のリスク・リターン
- 6 証券投資（2）標準偏差
- 7 証券投資（3）相関係数
- 8 証券投資（4）分散投資
- 9 証券投資（5）分散投資
- 10 中間テスト
- 11 資本市場（1）債券のリスク・リターン
- 12 資本市場（2）債券の特徴
- 13 資本市場（3）株式の特徴
- 14 資本市場（4）株式の投資尺度
- 15 資本市場（5）投資信託・NISA
- 16 期末テスト

【履修上の注意事項】

証券市場論Ⅱとセットで受講することが望ましい。

毎回、電卓を持参すること。

前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年

【参考文献】

証券市場論Ⅱ

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

金融市場における重要な市場が、証券市場です。
証券市場では、株式や国債・社債等が取引されています。
前半の講義では、証券市場論Ⅰの理論をE X C E Lを活用して検証する。
また株価情報の分析を実習形式で行う。
後半の講義では、証券外務員二種試験の株式・債券に関する範囲を学習する。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 P C 演習・データ収集
- 3 P C 演習・理論検証Excel (1)
- 4 P C 演習・理論検証Excel (2)
- 5 P C 演習・株価分析Excel (1)
- 6 P C 演習・株価分析Excel (2)
- 7 P C 演習・株価分析Excel (3)
- 8 P C 演習・株価分析Excel (4)
- 9 P C 演習・株価分析Excel (5)
- 10 中間テスト (P C)
- 11 証券外務員 (株式)
- 12 証券外務員 (株式)
- 13 証券外務員 (株式)
- 14 証券外務員 (債券)
- 15 証券外務員 (債券)
- 16 期末テスト

【履修上の注意事項】

《重要》受講対象者は、証券市場論Ⅰの単位取得者とする。

毎回、電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席状況に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年

情報システム I

担当教員 真栄田 好史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報システムは、コンピュータシステム（デジタル）だけではなく、人間が会社や組織などで行う活動（アナログ）も、情報活動を支えるシステムといえる。本講義は、システムを構築する際、システムに必要とされる、人、モノ、カネ、情報の流れを、整理、分類する方法の習得、何のためにシステム化が必要なのか、どの様に構築するのか考えさせ（検討、分析）、「基本理念（根）、基本コンセプト：概念」を設定する重要性も理解させ、基本計画または企画書などを作成する知識・技能習得に主眼をおいている。演習も行いたい。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション(講義計画, 評価方法等の説明)
2. 情報とシステム
3. 情報とは：情報の分類
4. システムへの応用：システムの範囲
5. システムへの応用：目標と目的
6. システムへの応用：業務分析とシステム分析
7. システムへの応用：企画の立案、目標の設定と問題点の分析
8. システムへの応用：復習
9. システムへの応用：復習 2
10. 練習問題
11. システム設計：演習 1
12. システム設計：演習 2
13. システム設計：演習 3
14. システム設計：演習 4
15. システム設計：演習 5
16. 期末テスト又はまとめ

【履修上の注意事項】

講義の最中に、YouTubeをはじめとしインターネットへのアクセスが多々見受けられます。

指示なく、インターネットへのアクセスは、禁止します。

また、講義に関係ない、YouTubeなどの動画閲覧などに関しては、一切アクセスを禁止します。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、受講姿勢、および試験（若しくは提出されたレポート又は課題）によっての内容を総合して判断する。なお、再試験、追試験は行わない。

【テキスト】

適宜資料を配付する。

【参考文献】

「システム分析入門」南条優 オーム社

「フローチャートの書き方」 ※その他、必要に応じて講義の中で紹介する。

情報システムⅡ

担当教員 真栄田 好史

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

プログラム（完成されたもの）とプログラミング（過程）の違いを理解させる。その上で、プログラミングに必要とされるフローチャートの作成とプログラムの解き方（アルゴリズム）について習得させることを目標とする。また、コンピュータ化されたものだけがプログラムでないことも併せて理解させる（紙の上でのプログラムの場合あり）。そのことも理解してもらいながら講義を行う。演習も行いたい。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション（講義計画、評価方法等の説明）
2. コンピュータの歴史：復習
3. プログラミングの初歩的な概念：開始～終了まで。
4. アルゴリズムの基礎
5. 流れ図の作成1：フローチャートの見方
6. 流れ図の作成2：フローチャートの書き方
7. 練習問題
8. アルゴリズムについて：基本形1
9. アルゴリズムについて：基本形2
10. アルゴリズムについて：分岐（条件）
11. アルゴリズムについて：繰り返し（ループ処理）
12. アナログとデジタルの違い
13. アナログで書かれたプログラム1
14. アナログで書かれたプログラム2
15. アナログで書かれたプログラム3
16. 期末テスト又はまとめ

【履修上の注意事項】

情報システムⅠを履修済みである者を優先させる。

講義の最中に、YouTubeをはじめとしインターネットへのアクセスが多々見受けられます。

指示なく、インターネットへのアクセスは、禁止します。

また、講義に関係ない、YouTubeなどの動画閲覧に関しては、一切アクセスを禁止します。

【評価方法】

成績評価の方法は、出席状況、受講姿勢、および試験（若しくは提出されたレポート又は課題）によっての内容を総合して判断する。なお、再試験、追試験は行わない。

【テキスト】

適宜資料を配付する。

【参考文献】

「アルゴリズムとデータ構造」アイ・ティ・フロンティア

「フローチャートの書き方」

※その他、必要に応じて講義の中で紹介する。

情報処理概論

担当教員 金城 敬太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

情報処理についての基礎を学びます。

ITパスポートに関連する内容をやります。また、それ以外にもいくつかプログラミング言語やその概念についても学ぶことで情報処理について身につける予定です。

【授業の展開計画】

1. 導入
- 2～4. ハードウェア・・・装置の名前、仕組みなど
- 5～7. ソフトウェアとマルチメディア・・・装置の名前、しくみ、エクセルによる演習
- 8～9. システム構成・・・システムの構成、信頼性評価
- 10～13. アルゴリズムとプログラミング・・・プログラミングの方法、実装の基礎
14. マネジメント
15. 全体のまとめ
16. 復習

【履修上の注意事項】

教科書の購入を勧めます。

【評価方法】

出席および、途中で行う課題・テストによって判定します。

【テキスト】

栢木厚「栢木先生のITパスポート教室」技術評論社

【参考文献】

情報と社会

担当教員 浦本 寛史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間は情報に対してどのように関わり、歩んできたのだろうか。現代社会の中で、情報の役割と情報技術がもたらす影響、インパクト、それに伴う人間社会の変容、さらに光と影を多面的に検討することを目的とする。

【授業の展開計画】

到達目標は以下のとおり。

1. ICTが及ぼす消費生活、経済、産業、政治、文化、教育などへの影響について説明することができる。
2. 今後ますます進歩し続ける情報技術とその社会に対して自分の意見を持つことができる。

- 1回目：情報に関し、収集、分析、判断、評価の定義
- 2回目：情報とメディアリテラシーの関係を見出す
- 3回目：人・社会・技術（人間と情報とのかかわりを探り、ICT社会の未来を見つめる）
- 4回目：ユビキタス情報社会（身のまわりにある情報化（IT化）を認識し、どのような役割を担っている）
- 5回目：情報化と消費者心理（行動心理学的な観点から情報化社会が生み出した行動変容を探る）
- 6回目：情報経済の構造（ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する）
- 7回目：情報経済の構造（ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する）
- 8回目：情報の保管・運営（日本における、コンテンツの利用法とアーカイブの役割を理解する）
- 9回目：情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）
- 10回目：情報化社会における創造性（学校教育の役割と人材育成について理解を深める）
- 11回目：通信と放送の融合（コンテンツ作成手法と放送との融合メリットを探る）
- 12回目：情報社会の未来（理想的なICT利用と新しいコミュニケーションの形を考える）
- 13回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。
- 14回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。
- 15回目：振り返り
- 16回目：最終試験

【履修上の注意事項】

ディスカッション形式や発表の場面が多いため、積極的に授業参加を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢（20%）、最終試験（80%）を総合的に判断、評価する。

【テキスト】

特にテキストの指定はしない、適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

インストラクショナルデザインの原理（鈴木克明監訳：北大路書房）、情報技術と社会（大岩元、辰巳文雄：放送大学教育振興会）、各種統計（総務省Webサイト参照）

情報文化論 I

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

近年、情報文化という言葉が頻りに耳にするが、この言葉によって何を意図しようとするのかは、明確ではない。これは情報文化という概念がまだ定着しておらず、いろいろな意味合いで使用されているからである。それが現代社会の特徴、現象、事象を表現する言葉として、きわめてインパクトが強いからであろう。そこで本授業では、情報文化の歴史を通して使用例、定義例を紹介し、それらと現在の情報環境を踏まえて情報文化の新たな定義を提案する。講義を通じた到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 情報文化に関し自分の言葉で定義することができる
2. 情報リテラシー能力（収集、分析、発信、著作など）を身につけることができる
3. 社会において情報文化がもたらす光と影を説明することができる

- 1週目 授業内容の確認と事前テスト（情報、メディアに関するテスト）
- 2週目 情報文化に関する世界各国の定義
- 3週目 情報とメディアリテラシー
- 4週目 情報を運ぶ媒体の歴史
- 5週目 カルチャラル・スタディーズ
- 6週目 情報伝達の基本的理論と概念
- 7週目 メディアの時代（新聞・印刷技術の発展）
- 8週目 中間試験（習得度確認）
- 9週目 メディアの知（プロパガンダ）
- 10週目 電話・電信の歴史と利用法
- 11週目 マス・メディアとしてのラジオ
- 12週目 テレビの変遷（テレビの波及効果）
- 13週目 情報メディアがもたらす家族の変化
- 14週目 特別講義（メディア企業関連）
- 15週目 ふりかえり
- 16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

履修上の注意事項 パーソナルコンピュータの基本操作ができるもの

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメや資料を配布する

【参考文献】

1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定

情報文化論Ⅱ

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

情報文化論Ⅱでは、情報文化論Ⅰで習得した知識をさらに深め、様々な定義に基づいて情報文化の諸側面(情報の重要性, 情報機器, 情報リテラシー, 情報管理体制, 制度, 文化的側面), 情報文化の事例, わが国、わが県における情報文化の特徴について学ぶ。また、県内企業との連携も図り現場での情報技術がどのように社会貢献しているか学ぶ。講義を通じた到達目標は次のようになる。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

1. 情報文化が社会にもたらす影響を説明することができる
2. 情報技術を利用した現場を視察し、情報文化の動向を説明することができる

1週目 授業内容の確認と事前テスト(情報文化論Ⅰで学んだことも含む)

2週目 情報文化がもたらす社会への影響(経済)

3週目 情報文化がもたらす社会への影響(教育・家族)

4週目 複合的なメディアリテラシー

5週目 複合的なメディアリテラシー

6週目 事例を通して批判的理論と実践

7週目 事例を通して批判的理論と実践

8週目 中間試験(習得度確認)

9週目 県内視察(メディア関連施設)

10週目 情報文化における広告手法の変遷

11週目 アジアの情報文化事例

12週目 アジアの情報文化事例

13週目 特別講義(IT企業関連)

14週目 情報文化における編集活動の変容

15週目 ふりかえり

16週目 最終試験

【履修上の注意事項】

パーソナルコンピュータの基本操作ができるもの、情報文化論Ⅰを習得したものが望ましい

【評価方法】

事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

【テキスト】

レジメや資料を配布する。

【参考文献】

1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定、4. DVD、ビデオ教材

情報リテラシー演習

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	基本的な操作方法と日本語入力の練習
3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法
4	ワードの操作方法 (1)
5	ワードの操作方法 (2)
6	ワードの操作方法 (3)
7	ワードの操作方法 (4)
8	エクセルの操作方法 (1)
9	エクセルの操作方法 (2)
10	エクセルの操作方法 (3)
11	エクセルの操作方法 (4)
12	エクセルの操作方法 (5)
13	パワーポイントの操作方法 (1)
14	パワーポイントの操作方法 (2)
15	パワーポイントの操作方法 (3)
16	

【履修上の注意事項】

出席を重視する。課題提出を重視する。

【評価方法】

出席と課題(提出状況・内容)に基づき評価する。

【テキスト】

テキストなし。
毎回資料を配付する。

【参考文献】

なし

情報リテラシー演習

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	基本的な操作方法と日本語入力の練習
3	インターネットの活用と電子メールの利用方法
4	ワードの操作方法 (1)
5	ワードの操作方法 (2)
6	ワードの操作方法 (3)
7	ワードの操作方法 (4)
8	エクセルの操作方法 (1)
9	エクセルの操作方法 (2)
10	エクセルの操作方法 (3)
11	エクセルの操作方法 (4)
12	エクセルの操作方法 (5)
13	パワーポイントの操作方法 (1)
14	パワーポイントの操作方法 (2)
15	パワーポイントの操作方法 (3)
16	最終課題

【履修上の注意事項】

出席と課題提出を重視します（課題は講義中に提示する）。

【評価方法】

出席と課題（提出状況と内容）に基づき評価します。

【テキスト】

テキストなし。毎回資料を配布します。

【参考文献】

特になし。

情報リテラシー演習

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本的な操作方法と日本語入力の練習
- 第3回 インターネットの活用方法と電子メールの利用方法
- 第4回 ワードの操作方法 (1)
- 第5回 ワードの操作方法 (2)
- 第6回 ワードの操作方法 (3)
- 第7回 ワードの操作方法 (4)
- 第8回 エクセルの操作方法 (1)
- 第9回 エクセルの操作方法 (2)
- 第10回 エクセルの操作方法 (3)
- 第11回 エクセルの操作方法 (4)
- 第12回 エクセルの操作方法 (5)
- 第13回 パワーポイントの操作方法 (1)
- 第14回 パワーポイントの操作方法 (2)
- 第15回 パワーポイントの操作方法 (3)
- 第16回 最終課題作成

【履修上の注意事項】

初回の講義に授業の進め方や成績評価について説明します。初回から出席するようにしてください。

【評価方法】

出席状況と課題の提出状況・内容をもとに評価します。

【テキスト】

毎回資料を配付しますので、テキストは特に指定しません。

【参考文献】

特に指定しません。

西洋経済史 I

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済史とは、文字通り経済の歴史を研究する学問である。しかし、その範囲はあまりにも広いため、ここでは時代区分をある程度限定しなくてはならない。すなわち、この講義ではヨーロッパにおける経済の発達—具体的には農業社会→商業社会→工業化社会への変化—を見ていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価の方法などの説明
2	中世ヨーロッパ社会の特徴
3	農業—三圃式農業から輪裁式農業へ—
4	都市国家の成立
5	商業の発達
6	国内市場から海外市場へ
7	植民地経営の進展
8	重商主義政策の進展
9	重金主義政策
10	差額貿易主義政策
11	産業保護政策
12	絶対主義体制の崩壊
13	イギリスとフランス
14	イギリスにおける農業革命
15	イギリスにおける産業革命前夜
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実の積み重ねという性格の学問であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で評価する。

【テキスト】

イギリスで手に入れた経済史のテキストをプリントして配布する。したがって、ある程度の英語力が必要である。

【参考文献】

開講時に指示する。

西洋経済史Ⅱ

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

西洋経済史Ⅰでは、中世絶対王政の崩壊のところまで学んできた。この過程は、まさに近代社会を生み出すために必要なものであった。すなわち、王政の崩壊は、その内部に近代化の萌芽を含んでいたのである。したがって、ここでは近代化が全面開花したヨーロッパ社会の実情を見ていきたい。その際中心になるのは、どうしてもイギリスの産業革命であろう。ここでは、この「革命」に焦点を当て、なぜイギリスでそれが可能だったのかを考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の内容、評価方法などの説明
2	ビデオ上映—Sheffieldの工場跡、Belper峡谷の工場群、アークライト工場—など
3	イギリスでなぜ産業革命が起きたのか？
4	二つの革命
5	価格革命
6	農業革命
7	羊毛工業の発達—オランダとの関係—
8	綿工業の発達
9	機械化と発明の進展
10	関連産業の発達
11	鉄鋼業
12	石炭産業
13	消費の拡大と国内市場の形成
14	大英帝国の没落とその原因
15	アメリカおよびドイツの産業革命
16	期末試験

【履修上の注意事項】

事実の積み重ねという性格の学問であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で評価する。

【テキスト】

イギリスで手に入れた経済史のテキストをプリントして配布する。したがって、ある程度の英語力が必要である。

【参考文献】

開講時に指示する。

専門演習 I A

担当教員 平敷 卓

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、基礎演習で学んできたことをベースに、各自でテーマを持ち、問題関心を深め、情報を分析し、プレゼン、ディスカッション能力の向上を図っていきます。沖縄経済や県内の地域づくりの事例などを学び、社会との関わり方を学んでいくため、課外活動等を積極的に取り入れます。4年次には卒業論文を執筆してもらうため、前期では論文執筆に向けたテーマの絞り込み、情報収集と各自のテーマに関する報告を行う。

【授業の展開計画】

【前期：専門演習 I A】

1. 演習の進め方について
- 2～3. 情報収集と分析、報告のルール
- 4～6. 研究テーマの設定と報告
- 7～15. グループワークと報告、ディスカッション

【後期：専門演習 I B】

1. 前期を振り返って
- 2～3. 個別テーマ設定方法について—マインドマップと問題設定
- 4～5. 個別研究テーマの報告について
- 6～7. 文献リストの作成と先行研究の整理
- 8～14. 卒業論文作成に向けた個別報告とディスカッション
15. 後期演習のまとめと次年度に向けた準備

※本演習では各自の問題関心を深め、課題解決に向けた実践力の向上を目指すため、上記演習計画とは別に実地見学や学外者との協働プロジェクトによる課外活動も行います。

【履修上の注意事項】

演習は各自の報告とディスカッションを基本に行います。積極的な発言、課外活動への積極的な参加が求められます。当然のことですが、報告担当時の遅刻、欠席は厳禁です。

【評価方法】

演習への参加態度、発言・発表内容等から総合的に評価する。
※欠席が3分の1を超える場合は「不可」

【テキスト】

演習時に提示する。

【参考文献】

演習時に提示する。

専門演習 I A

担当教員 宮城 和宏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

基礎演習Ⅲ、Ⅳの授業を請けて、沖縄の将来の方向性について考えていく。沖縄の現在の経済状況、将来の可能性を見据えた上で、今後どのような選択肢が沖縄にあるのか、それぞれの選択肢の可能性について学習、報告し皆で議論する。

【授業の展開計画】

1週目：ガイダンス

2週目以降：各グループに分け、テーマを設定した後に、グループ毎に学習し、内容を報告する。それを皆で議論する。

【履修上の注意事項】

サブゼミにきちんと参加すること。やる気のある人の足を引っ張らないようにすること。

【評価方法】

授業への参加度を最も重視する。ゼミにおける真摯な態度、積極性、他の人への影響度を見た上で総合的に評価。出席回数が3分の2に満たない場合や出席態度が不良の場合は不可とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

後日、紹介する。

専門演習 I A

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅱにおける卒業論文作成に向けた経済学の専門知識を深めていくことと、雇用失業や財政、産業など沖縄県及び全国の社会経済への認識を、論文や専門書の輪読等によって深めていく。日本や沖縄の社会・経済の現状を冷静に分析し、どうすれば地域が発展し、住民が幸福になるのか、グループ討議も含め議論を重ねながら、一緒に考えていく。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション（講義予定など）
第2～3週 論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど）
第4～6週 経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える）
第7～9週 専門書、論文等の輪読
第10～15週 調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など）
第16週 前期総括及び夏休みの課題テーマの発表など

【履修上の注意事項】

所得格差、労働問題や財政問題、中心市街地の活性化など幅広い分野に関心があり、調査研究意欲があること。積極的に発表したり、ディスカッションに加われること。また、ゼミの合宿や懇親会等にも積極的に参加すること。

【評価方法】

発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。
講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。

【テキスト】

特にないが、そのつど紹介する

【参考文献】

「問題解決力」稲崎宏治 ダイアモンド社、「寓話で学ぶ経済学」ラッセル・ロバーツ 日本経済新聞社、
「経済学で現代経済を読む」ダグラス・ノース他 日本経済新聞社 など

専門演習 I A

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、沖縄県及び日本、諸外国の財政に係わる経済社会問題について、論文や専門書の輪読等によって、理解を深めるとともに、報告と議論の能力の向上を図ります。演習をすすめていくなかで、卒業論文作成に向けて、経済学、財政学の専門知識を深めるだけでなく、受講者の問題意識を高めていきます。

【授業の展開計画】

第1回 オリエンテーション

第2～15回 報告・議論

第16回 総括

【履修上の注意事項】

- ・何事にも積極的かつ自主的に参加してほしいと思います。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）をもとに総合的に評価します。

【テキスト】

演習開始時に指示します。

【参考文献】

適宜紹介します。

専門演習 I A

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融市場・経済問題を調査するために、必要な基礎力をつける。

【授業の展開計画】

金融市場・経済問題に関する文献を読んだ上で、
報告・議論を行う。
自分の考えを伝える練習を行う。

【履修上の注意事項】

証券市場論 I II・企業分析を履修すること。
出席・発表を重視する。

【評価方法】

出席状況、発表、参加姿勢、提出物に基づき評価する。

【テキスト】

開講時に指定します。

【参考文献】

専門演習 I A

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（自己紹介等）
2	報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当
3	報告・ディスカッション（1）
4	報告・ディスカッション（2）
5	報告・ディスカッション（3）
6	報告・ディスカッション（4）
7	報告・ディスカッション（5）
8	工場見学または課外授業
9	報告・ディスカッション（6）
10	報告・ディスカッション（7）
11	報告・ディスカッション（8）
12	報告・ディスカッション（9）
13	報告・ディスカッション（10）
14	経営学関係のビデオ/DVD学習
15	専門演習 I Aの反省会・総括
16	予備日

【履修上の注意事項】

学生の積極性を重視する。本演習での積極性とは、「〇〇がいやだ」、「△△が気に入らない」という姿勢から、「□□がやってみたい」、「◎◎のようになりたい」への転換である。教室で報告する力、ゼミ生とディスカッションする力、また集団で議論をまとめる力などを培ってほしい。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）などを総合的に評価する。

【テキスト】

演習開始時に指示する。

【参考文献】

参考になる文献は適宜紹介する。

専門演習 I A

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の専門演習 I Aは原則として専門演習 I Bや4年次の専門演習 II A, II Bへと持ち上がりになります。演習（ゼミナール）というのは、討論や共同作業を通して学生同士が学びあい、各自の認識を深めるというのが目的ですから、できるだけ率直に積極的に話をするのが大事です。いろんな意見やセンスの持ち主が集まって議論が活発になったらいいと思いますので、留学生は歓迎です。とにかく、仲良く楽しくやっていきたいですね。

【授業の展開計画】

最初は共通の話題をつくるため何か面白そうなテキストの輪読から始めようと思います。私としては、日本経済の危機と救済策、グローバル化の功罪、ドル覇権の動揺と日本、世界秩序の行方といった刺激的なテーマにしたいなと思っています。皆さんが率直に対話できるだけの共通の認識・知識の基盤ができれば、その上に立って自分より深く調べ、皆に自分の考えを話し、他の人の意見を聞いてさらに自分の思考を高めていくと同時にメンバーの共通認識を広げていくこと（これを「ソクラテスの対話法」と言います）を目指します。

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

何かを履修要件にすることはありませんが、誰かと対話をしたいと思う人、世の中の動きに関心を持っている人が向いていると思います。ユニークな発想をする人を歓迎します。
登録上限 16 人。

【評価方法】

レポート 50%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来等） 50%

【テキスト】

未定

【参考文献】

未定

専門演習 I A

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

ダイナミックに成長するアジア諸国の工業化波及は、日本→NIES→ASEAN→中国・ベトナム→ミャンマーへと進んでいる。工業化波及の進展は、プロダクト・サイクル論の一環として捉えることもできるが、日本を起点とした波及サイクルは、現在どこまで進んでいるのか、データ等の分析を通じて検証していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 研究対象分野の選択
2	第2週 各人の研究テーマの設定
3	第3週 研究方法の説明とプレゼンテーションの方法
4	第4週 研究調査・文献検索図書館
5	第5週 データ収集・図書館
6	第6週 研究開始
7	第7週 第1回発表会
8	第8週 第2回発表会
9	第9週 第3回発表会
10	第10週 第4回発表会
11	第11週 第5回発表会
12	第12週 第6回発表会
13	第13週 第7回発表会
14	第14週 第8回発表会
15	第15週 第9回発表会
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

1. 出席は毎回とります。
2. 研究した分野の発表を行う。
3. プロジェクターを使用すること。

【評価方法】

1. 課題を研究すること。
 2. プレゼンテーションを行うこと。
 3. 質疑応答を行うこと。
 4. 出席すること。
- 以上を総合的に数値化して評価を行います。

【テキスト】

渡辺 利夫編『アジアの経済読本』〔第4版〕東洋経済

【参考文献】

1. 経済白書
2. 世界経済白書
3. 東アジア長期統計〔台湾〕

専門演習 I B

担当教員 平敷 卓

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、基礎演習で学んできたことをベースに、各自でテーマを持ち、問題関心を深め、情報を分析し、プレゼン、ディスカッション能力の向上を図っていきます。沖縄経済や県内の地域づくりの事例などを学び、社会との関わり方を学んでいくため、課外活動等を積極的に取り入れます。4年次には卒業論文を執筆してもらうため、前期では論文執筆に向けたテーマの絞り込み、情報収集と各自のテーマに関する報告を行う。

【授業の展開計画】

【前期：専門演習 I A】

1. 演習の進め方について
- 2～3. 情報収集と分析、報告のルール
- 4～6. 研究テーマの設定と報告
- 7～15. グループワークと報告、ディスカッション

【後期：専門演習 I B】

1. 前期を振り返って
- 2～3. 個別テーマ設定方法について—マインドマップと問題設定
- 4～5. 個別研究テーマの報告について
- 6～7. 文献リストの作成と先行研究の整理
- 8～14. 卒業論文作成に向けた個別報告とディスカッション
15. 後期演習のまとめと次年度に向けた準備

※本演習では各自の問題関心を深め、課題解決に向けた実践力の向上を目指すため、上記演習計画とは別に実地見学や学外者との協働プロジェクトによる課外活動も行います。

【履修上の注意事項】

演習は各自の報告とディスカッションを基本に行います。積極的な発言、課外活動への積極的な参加が求められます。当然のことですが、報告担当時の遅刻、欠席は厳禁です。

【評価方法】

演習への参加態度、発言・発表内容等から総合的に評価する。
※欠席が3分の1を超える場合は「不可」

【テキスト】

演習時に提示する。

【参考文献】

演習時に提示する。

専門演習 I B

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

ダイナミックに成長するアジア諸国の工業化波及は、日本→NIES→ASEAN→中国・ベトナム→ミャンマーへと進んでいる。工業化波及の進展は、プロダクト・サイクル論の一環として捉えることもできるが、日本を起点とした波及サイクルは、現在どこまで進んでいるのか、データ等の分析を通じて検証していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 論文作成説明
2	第2週 各人の研究テーマの検討
3	第3週 発表研究方法の説明
4	第4週 図書館ラーニング・コモンズ
5	第5週 データ分析方法
6	第6週 研究開始
7	第7週 第1回発表会
8	第8週 第2回発表会
9	第9週 第3回発表会
10	第10週 第4回発表会
11	第11週 第5回発表会
12	第12週 第6回発表会
13	第13週 第7回発表会
14	第14週 第8回発表会
15	第15週 第9回発表会
16	まとめ

【履修上の注意事項】

1. 毎回出席すること。
2. 研究分野の発表を行うこと。
3. プロジェクターを活用すること。

【評価方法】

1. 課題を研究すること。
 2. 質疑高騰を行うこと。
 3. 出席すること
 4. プレゼンすること。
- 以上を総合的に数値化して評価を行います。

【テキスト】

渡辺 利夫編『アジア経済読本』〔第4版〕東洋経済

【参考文献】

1. 経済白書
2. 世界経済白書
3. 東アジア長期統計〔韓国〕

専門演習 I B

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の専演習 I B は原則として4年次の演習 II A, II Bへと持ち上がりになります。演習（ゼミナール）というのは、討論や共同作業を通して学生同士が学びあい、各自の認識を深めるというのが目的ですから、できるだけ率直に積極的に話をするのが大事です。いろいろな意見やセンスの持ち主が集まって議論が活発になったらいいなと思います。

【授業の展開計画】

専門演習 I A で何らかのテキストを輪読した後は、別のテキストを輪読するか、個人またはグループでテーマを決めて調査や研究をするかは相談して決めます。輪読の場合は各自が順番にテキストの分担部分の要約や感想を、調査・研究の場合はその中間的な成果を発表することになります。

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

何かを履修要件にすることはありませんが、誰かと対話をしたいと思う人、世の中の動きに関心を持っている人が向いていると思います。ユニークな発想をする人を歓迎します。
登録上限 20人。

【評価方法】

レポート 50%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来等） 50%

【テキスト】

未定

【参考文献】

未定

専門演習 I B

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、沖縄県及び日本、諸外国の財政に係わる経済社会問題について、論文や専門書の輪読等によって、理解を深めるとともに、報告と議論の能力の向上を図ります。演習をすすめていくなかで、卒業論文作成に向けて、経済学、財政学の専門知識を深めるだけでなく、受講者の問題意識を高めていきます。

【授業の展開計画】

第1回 オリエンテーション

第2～15回 報告・議論

第16回 総括

【履修上の注意事項】

- ・何事にも積極的かつ自主的に参加してほしいと思います。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）をもとに総合的に評価します。

【テキスト】

演習開始時に指示します。

【参考文献】

適宜紹介します。

専門演習 I B

担当教員 安藤 由美

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

金融市場・経済問題を調査するために、必要な基礎力をつける。

【授業の展開計画】

金融市場・経済問題に関する文献を読んだ上で、
報告・議論を行う。
自分の考えを伝える練習を行う。

【履修上の注意事項】

証券市場論 I II・企業分析を履修すること。
出席・発表を重視する。

【評価方法】

出席状況、発表、参加姿勢、提出物に基づき評価する。

【テキスト】

開講時に指定します。

【参考文献】

専門演習 I B

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習 I Aでの学習を踏まえて、後期ではグループ別に興味のあるテーマについて調査を行い、その結果を発表・討議する。また、グループ活動を通して各自の卒論のテーマについても考えていく。

【授業の展開計画】

第1週	オリエンテーション（講義予定など）
第2～3週	夏休み課題の発表とディスカッション
第4週	外部講師による講義
第5～7週	グループによる調査研究 I（テーマ選択、研究の企画づくり）
第8～12週	グループによる調査研究 II（企業訪問、アンケートなど）
第13～15週	調査結果の発表と討議
第16週	後期の反省および総括

【履修上の注意事項】

所得格差、労働問題や財政問題、中心市街地の活性化、企業経営など、幅広い分野に関心があり、調査研究意欲があること。積極的に発表したり、ディスカッションに加われること。

【評価方法】

発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。
講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適宜紹介する

専門演習 I B

担当教員 村上 了太

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	報告割当、連絡事項ほか
2	報告・ディスカッション (1)
3	報告・ディスカッション (2)
4	報告・ディスカッション (3)
5	報告・ディスカッション (4)
6	報告・ディスカッション (5)
7	報告・ディスカッション (6)
8	課外授業または社会人特別講師の授業
9	報告・ディスカッション (7)
10	報告・ディスカッション (8)
11	報告・ディスカッション (9)
12	報告・ディスカッション (10)
13	報告・ディスカッション (11)
14	報告・ディスカッション (12)
15	専門演習 I B の反省会・総括
16	予備日

【履修上の注意事項】

専門演習 I A からの継続履修を前提とする。学生の積極性を重視する。本演習での積極性とは、「〇〇がいやだ」、「△△が気に入らない」という姿勢から、「□□がやってみたい」、「◎◎のようになりたい」への転換である。教室で報告する力、ゼミ生とディスカッションする力（特に本演習では、グループディスカッション）などを培ってほしい。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）などを総合的に評価する。

【テキスト】

演習開始時に指示する。

【参考文献】

参考になる文献は適宜紹介する。

専門演習 I B

担当教員 宮城 和宏

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習 I Aに引き続き、沖縄の将来の方向性について考えていく。沖縄の現在の経済状況、将来の可能性を見据えた上で、今後どのような選択肢が沖縄にあるのか、それぞれの選択肢の可能性について学習、報告し皆で議論する。

【授業の展開計画】

1週目：ガイダンス

2週目以降：各グループに分け、テーマを設定した後に、グループ毎に学習し、内容を報告する。それを皆で議論する。

【履修上の注意事項】

授業やサブゼミに積極的に参加することが望まれる。

【評価方法】

授業への参加度を最も重視する。ゼミにおける真摯な態度、積極性、他の人への影響度を見た上で総合的に評価。出席回数が3分の2に満たない場合や出席態度が不良の場合は不可とする。

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし。

専門演習ⅡA

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、3年次に修得したことをもとに、卒業論文を作成します。各自設定したテーマを深く掘り下げて調査・分析を行い、適宜報告・ディスカッションを行います。演習をすすめていくなかで、専門知識の理解を深め、問題意識を高めるとともに、報告・ディスカッションの能力向上を図ります。

【授業の展開計画】

第1回 オリエンテーション

第2～15回 報告・議論

第16回 総括

【履修上の注意事項】

- ・何事にも積極的かつ自主的に参加してほしいと思います。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）をもとに総合的に評価します。

【テキスト】

演習開始時に指示します。

【参考文献】

適宜紹介します。

専門演習ⅡA

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

これまでの研究で積み上げてきたものを更に掘り下げ、卒業論文として仕上げていくことを目標にし、前期においては、中間報告の形で発表してもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 論文作成の参考文献等の研究
2	第2週 第1回研究発表会
3	第3週 第2回研究発表会
4	第4週 第3回研究発表会
5	第5週 第4回研究発表会
6	第6週 第5回研究発表会
7	第7週 第6回研究発表会
8	第8週 第7回研究発表会
9	第9週 第8回研究発表会
10	第10週 第9回研究発表会
11	第11週 第10回研究発表会
12	第12週 第11回研究発表会
13	第13週 第12回研究発表会
14	第14週 第13回研究発表会
15	第15週 第14回研究発表会
16	第16週 第15回研究発表会

【履修上の注意事項】

1. パワーポイントを使いプレゼンテーションを行うこと。

【評価方法】

1. 出席回数
 2. プレゼンテーション
 3. 質問及び解説を行う。
- 以上を参考に総合的に評価する。

【テキスト】

卒論作業のため特に指定はしない。

【参考文献】

専門演習ⅡA

担当教員 梅井 道生

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習Ⅰでは、東南アジア地域における経済問題の概略を学習してきた。本年度は、それをさらに発展させ、テーマを絞り込んでいきたい。そして、最終的には、卒業論文にまとめていく。

【授業の展開計画】

前期:ゼミ生が自主的にアジア地域の情報収集を行い、研究を進める。

後期:卒業論文のテーマを決め、研究発表を行う。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、積極的な討論を求められる。

【評価方法】

提出された卒業論文で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。変化の非常に激しい地域であるから、ネット情報が有効である。

【参考文献】

特になし。

専門演習ⅡA

担当教員 安藤 由美

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「経済問題・金融市場」に関する卒業論文を作成・報告する。

【授業の展開計画】

前期(ⅡA)：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う
構想をまとめ、中間報告する。

後期(ⅡB)：卒業論文を作成する。
卒論判定を経て、卒論報告を行う。

【履修上の注意事項】

証券市場論ⅠⅡ・企業分析を履修すること。
出席・報告・卒業論文を重視する。

【評価方法】

出席状況、報告、卒業論文に基づき評価する。

【テキスト】

開講時に指定します。

【参考文献】

専門演習ⅡA

担当教員 宮城 和宏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次に学習してきたことを基にいくつかのグループに分かれ、ゼミ論を作成する。

【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループ分けと報告割り当て
- 3回～16回 報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

産業組織論Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅰ・Ⅱを履修しておくこと。積極的に議論に参加すること。

【評価方法】

課題発表の内容、参加姿勢、出席状況

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡA

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰでは、沖縄の産業及び労働雇用問題に対する共通認識を踏まえ、グループでそれぞれのテーマにもとづき、アンケートやインタビュー調査等の実態調査を行った。専門演習Ⅱでは、各自設定したテーマを深く掘り下げて詳細な調査・分析を行い、卒業論文を作成する。特にテーマの制限はしない。各自で興味・関心のあるテーマを選ぶ。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション
第2週 論文テーマの報告
第3週～5週 調査方法等に関する討論
第6週～16週 各自の調査分析をもとにした報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

討論での発言や他の学生の意見を聞く姿勢など演習中の態度も重視する。

【評価方法】

論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。

【テキスト】

論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。
必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する。

【参考文献】

専門演習ⅡA

担当教員 村上 了太

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、就職や進学を控えた4年次生を対象に開講される。4年間の学業の総括を「卒業論文」に成就させていく。実際には専門演習ⅡBにて提出するが、前期開講科目である本演習は、卒業論文の中間発表も行っていく。4月から7月までの間、各自毎月1回以上の中間報告（テーマ、章節など）を義務づける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（前期）
2	卒業研究の意義と報告割当
3	報告・ディスカッション（1）
4	報告・ディスカッション（2）
5	報告・ディスカッション（3）
6	報告・ディスカッション（4）
7	報告・ディスカッション（5）
8	工場見学または社会人特別講師による授業
9	報告・ディスカッション（6）
10	報告・ディスカッション（7）
11	報告・ディスカッション（8）
12	報告・ディスカッション（9）
13	報告・ディスカッション（10）
14	報告・ディスカッション（11）
15	前期のまとめ
16	予備日

【履修上の注意事項】

- (1) この演習は「卒業研究ゼミ」と位置づける。「大学生活で何を学んだのか」を総括するゼミである。
- (2) 専門演習ⅡAは、同ⅡBに提出する卒業論文の中間報告を行う。詳細は演習時間内に適宜説明する。

【評価方法】

出席状況（30%）、卒業論文の中間報告（50%）、提出物（20%）の割合で評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

適宜紹介する。

専門演習ⅡA

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の演習Ⅰに引き続いて、各自の興味を持ったテーマに沿って研究成果を発表してもらいます。グループでの研究・発表でもかまいません。演習での活発な討論を通して、完成度が高くなったら、卒業論文にしましょう。

【授業の展開計画】

上記の通り。

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

20名を持って、履修の上限とする。

【評価方法】

レポート40%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来、積極性）60%

【テキスト】

なし。

【参考文献】

演習中、必要に応じて、あるいはメンバーの要望に応じて紹介します。

専門演習ⅡB

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、3年次に修得したことをもとに、卒業論文を作成します。各自設定したテーマを深く掘り下げて調査・分析を行い、適宜報告・ディスカッションを行います。演習をすすめていくなかで、専門知識の理解を深め、問題意識を高めるとともに、報告・ディスカッションの能力向上を図ります。

【授業の展開計画】

第1回 オリエンテーション

第2～15回 報告・議論

第16回 卒業論文提出

【履修上の注意事項】

- ・何事にも積極的かつ自主的に参加してほしいと思います。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

出席、報告（レジュメ）をもとに総合的に評価します。

【テキスト】

演習開始時に指示します。

【参考文献】

適宜紹介します。

専門演習 II B

担当教員 梅井 道生

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

演習 I では、東南アジア地域における経済問題の概略を学習してきた。本年度は、それをさらに発展させ、テーマを絞り込んでいきたい。そして、最終的には、卒業論文にまとめていく。

【授業の展開計画】

前期:ゼミ生が自主的にアジア地域の情報収集を行い、研究を進める。

後期:卒業論文のテーマを決め、研究発表を行う。

【履修上の注意事項】

出席を重視する。また、積極的な討論を求められる。

【評価方法】

提出された卒業論文で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。変化の非常に激しい地域であるから、ネット情報が有効である。

【参考文献】

特になし。

専門演習ⅡB

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

3年次の演習Ⅰに引き続いて、各自の興味を持ったテーマに沿って研究成果を発表してもらいます。グループでの研究・発表でもかまいません。演習での活発な討論を通して、完成度が高くなったら、卒業論文にしましょう。

【授業の展開計画】

上記の通り。

週	授 業 の 内 容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

20名を持って、履修の上限とする。

【評価方法】

レポート40%、演習への参加姿勢（出席、発言、発表の出来不出来、積極性）60%

【テキスト】

なし。

【参考文献】

演習中、必要に応じて、あるいはメンバーの要望に応じて紹介します。

専門演習ⅡB

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習ⅡAで行った基礎調査や報告を踏まえ、卒業論文を仕上げていく。大学4年間の集大成として卒業論文を仕上げることのできるよう、指導・助言を行っていきたい。

【授業の展開計画】

第1週 オリエンテーション
第2週～3週 中間報告
第4週～8週 報告とディスカッション
第9週～12週 卒論のプレゼンテーション
第15週～16週 卒論編集

【履修上の注意事項】

討論での発言や他の学生の意見を聞く姿勢など演習中の態度も重視する。

【評価方法】

卒業論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。

【テキスト】

論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。
必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する

【参考文献】

専門演習ⅡB

担当教員 安藤 由美

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「経済問題・金融市場」に関する卒業論文を作成・報告する。

【授業の展開計画】

前期(ⅡA)：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う。

構想をまとめ、中間報告する。

後期(ⅡB)：卒業論文を作成する。

卒論判定を経て、卒論報告を行う。

【履修上の注意事項】

証券市場論ⅠⅡ・企業分析を履修すること。

出席・報告・卒業論文を重視する。

【評価方法】

出席状況、報告、卒業論文に基づき評価する。

【テキスト】

開講時に指定します。

【参考文献】

専門演習ⅡB

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で発表した中間報告を基に更に掘り下げ、卒業論文の完成を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 論文構成の内容をチェックする
2	第2週 第1回 論文発表会
3	第3週 第2回 論文発表会
4	第4週 第3回 論文発表会
5	第5週 第4回 論文発表会
6	第6週 第5回 論文発表会
7	第7週 第6回 論文発表会
8	第8週 第7回 論文発表会
9	第9週 第8回 論文発表会
10	第10週 第9回 論文発表会
11	第11週 第10回 論文発表会
12	第12週 第11回 論文発表会
13	第13週 第12回 論文発表会
14	第14週 第13回 論文発表会
15	第15週 第14回 論文発表会
16	第16週 論文提出

【履修上の注意事項】

各自、自分のプレゼンテーション時間を確認すること。

【評価方法】

1. プレゼンを行うこと。
2. 他人のプレゼンに対しコメントすること。

以上の2点を踏まえ評価する。

【テキスト】

卒業論文作成のため特に指定しない。

【参考文献】

専門演習ⅡB

担当教員 宮城 和宏

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期に引き続き、各グループによる報告・ディスカッションを行い、最終的にゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

1回～16回 報告・ディスカッション

【履修上の注意事項】

産業組織論Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅰ・Ⅱを履修しておくこと。積極的に議論に参加すること。

【評価方法】

課題発表の内容、参加姿勢、出席状況

【テキスト】

特になし

【参考文献】

特になし

専門演習ⅡB

担当教員 村上 了太

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

卒業論文の作成は、大学生活の総決算の意味も持ち合わせている。専門演習ⅡAとともに、また大学で何を学んだかも併せ持って執筆に臨んでもらいたい。卒業論文の提出までには、次の3段階を踏まなければ単位の評価を行わない。1) 10月から12月までの間、各自毎月1回以上の中間報告（テーマ、章節など）、2) 卒業論文の中間提出（期日厳守）、3) 完成した卒業論文の最終提出（期日厳守）。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（後期）
2	卒業研究の中間発表の割り当て・解説など
3	報告・ディスカッション①
4	報告・ディスカッション②
5	報告・ディスカッション③
6	報告・ディスカッション④
7	報告・ディスカッション⑤
8	報告・ディスカッション⑥
9	報告・ディスカッション⑦
10	報告・ディスカッション⑧
11	報告・ディスカッション⑨
12	報告・ディスカッション⑩
13	卒業論文仮提出・修正①
14	卒業論文仮提出・修正②
15	卒業論文仕上げ・提出
16	予備日

【履修上の注意事項】

専門演習ⅡAを履修した者を履修条件とする。

【評価方法】

出欠状況（50%）、卒業論文（50%）で評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する。

地域経済論

担当教員 平敷 卓

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、経済学的な視点から「地域」を捉え、都市と農村等地域間の相互関係や成り立ちを含む地域の（社会）経済システムの全体像を学び、その展望を描くための基礎を習得すること、そして、具体事例を交えながら、地域課題の発見と解決に向けた発案・提案力を得ることを目的とし、最終的に「地域」を観察窓として、身の回りの経済情勢変化を読み解く力を身に付け、社会への幅広い関心、理解を得るための複眼的視点を習得することを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、授業評価方法等について
2	地域経済を学ぶ視点—その対象とアプローチ
3	地域経済と国民経済
4	経済のグローバル化と地域経済
5	地域経済の理念と政策(1)
6	地域経済の理念と政策(2)
7	日本における地域政策の展開(1)
8	日本における地域政策の展開(2)
9	地域経済の現状(1) 人口構造の動態と地域
10	地域経済の現状(2) 産業構造
11	地域経済と地方財政(1)
12	地域経済と地方財政(2)
13	地域再生・地域づくりに向けた取組(1)
14	地域再生・地域づくりに向けた取組(2)
15	総括および沖縄の経済を学ぶ視点
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

基本的な受講マナーを守ること（私語、携帯電話等）。

【評価方法】

期末テスト 70% フィードバックペーパー（小テスト込） 30%

3分の2以上の欠席は、期末テストの受験資格を失います。

欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。

【テキスト】

適宜配布資料を用意します。

【参考文献】

岡田知弘、川瀬光義、鈴木誠、富樫幸一著『国際化時代の地域経済学【第3版】』有斐閣アルマ

中村剛治郎著「地域政治経済学」有斐閣

岡田知弘「地域づくりの経済学入門」自治体研究社

地方財政論 I

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

景気の低迷もあり国の財政事情が厳しくなる中、国と地方の役割が真剣に議論されています。これまでように財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指しつつ地方の自主性を重視するような考え方に変わってきています。近年の市町村合併や公務員の削減もこの動きと密接に関係しています。これは、皆さんを含む地域住民にとっては、生活スタイルに影響を与える大きな変動です。そのためには財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、国家財政と地方財政の関係とその変遷について学びます。このような基礎理論を踏まえ、後期では自分達の市町村の財政分析を行います。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明
第2・3週 地方財政の実態
第4・5週 国と地方の機能分担
第6・7週 制度としての地方財政
第8・9週 地方公共支出の経済学
第10・11週 地方団体の行財政改革
第12・13週 広域行政と狭域行政
第14・15週 地方税の体系と原則
第16週 試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

レポート及び試験を総合的に評価する

【テキスト】

「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス

【参考文献】

「地方財政論」税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房

地方財政論Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

景気の低迷、少子高齢化の進行などを背景にして、国と地方の財政赤字が深刻になっています。近年の市町村合併や公務員の削減もこの動きと密接に関係しています。これは、皆さんを含む地域住民にとっては、生活スタイルに影響を与える大きな変動です。そのためには財政に対する知識が必要です。本講義では、地方財政制度の基礎理論を学ぶとともに、後半では実践編として、自分の住んでいる市町村の財政分析を実際に体験してもらいます。これにより、自分達の市町村の財政の実力を診断し、一住民として財政を分析できる力を養います。

【授業の展開計画】

- 第1週 講義計画の説明
- 第2週 地方財政改革の動き
- 第3週 地方税の改革
- 第4週 //
- 第5週 国庫支出金と地方財政
- 第6週 //
- 第7週 地方交付税と財政調整
- 第8週 //
- 第9週 地方債の発行と国の関与
- 第10週 //
- 第11週 地域づくりと地方団体の役割
- 第12週 //
- 第13週 市町村財政分析の実習Ⅰ
- 第14週 市町村財政分析の実習Ⅱ
- 第15週 市町村財政分析の実習Ⅲ
- 第16週 テスト

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する

【テキスト】

「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス

【参考文献】

「地方財政論」税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房

中小企業論 I

担当教員 -上江洲 豪

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

中小企業論Ⅱ

担当教員 上江洲 豪

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本経済史 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現代の経済状況や経済問題を考える場合でも、過去の歴史的経緯や背景を踏まえることが欠かせません。とりわけ、日本の政治、経済、社会の発展には世界的に見ても独特な面があると思います。日本経済論 I では、縄文時代と神道の伝統、日本の農業革命としての稲作と天皇制、仏教の変容と封建制の展開等を扱います。その際、人類史や沖縄との関連も触れたいと思います。

【授業の展開計画】

テキストに沿って解説しつつ、関連する話題を適宜補足する。

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明
2	経済史・自然環境と人間社会との物質・エネルギー代謝、技術・知識の蓄積と伝播、組織・制度・思想の変遷
3	西洋中心史観の修正・アジアは世界経済の中心だった、西欧と日本の平行進化、江戸時代の再評価
4	ホモ・サピエンスの拡散と沖縄・日本
5	縄文時代の意義
6	弥生時代・・・農耕社会の形成
7	古代国家と大和王権
8	東アジア情勢と律令国家・・・「日本国」の成立
9	律令体制の揺らぎ・・・王朝と荘園公領制
10	中世前期の経済・・・在地勢力(武士)の台頭
11	中世経済の構造変化・・・村落共同体成立、南北朝、戦国時代、大名領国制、沖縄史の胎動
12	中世後期の経済：重商主義的領国経営、貫高制、商工業の発達、都市と海外交易、西洋との接触
13	近世の幕開けと江戸時代経済の成立・・・農民だけの村、武士の官僚化、石高制
14	江戸時代前期の経済動向・・・大開拓による高度成長時代、
15	江戸時代経済の成熟・・・土地の制約と人口停滞、石高制の矛盾、幕府や各藩の財政危機と改革
16	江戸時代経済の構造転換・・・労働集約的技術進歩、輸入代替、各藩の産業振興、大衆文化の成熟

【履修上の注意事項】

歴史に興味のある人歓迎。

【評価方法】

レポート60%、授業への参加姿勢(出席や質問等)40%

【テキスト】

太田愛之 他 『日本経済の2千年』勁草書房

【参考文献】

S・オッペンハイマー『人類の足跡10万年全史』草思社
谷川健一『甦る海上の道・日本と琉球』文春新書

日本経済史Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本経済史Ⅰと同様に日本の歴史の特質と現代に繋がる諸問題を探り上げる。特に、江戸時代の経済社会の独特の性格と明治以後のキャッチアップ型西洋化の光と影に焦点を当てたい。

【授業の展開計画】

テキストを解説しつつ、適宜補足する。

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介、講義計画・注意事項・評価方法を説明
2	江戸時代の特質と開国・開港・・・「鎖国」経済の終焉と通貨の混乱
3	明治維新と上からの近代化（西洋化？）
4	近代経済成長の起動
5	企業勃興と日清・日露戦争
6	「明治大正経済システム」、大正デモクラシーと社会主義
7	第一次大戦とブーム、その後の慢性不況・・・不良債権、二重構造経済、階級闘争の激化
8	井上財政と高橋財政
9	戦時統制経済・・・官僚統制、日満支ブロック、重化学工業化
10	占領「改革」と復興
11	高度成長
12	日本的経済システム（「高度成長期システム」）の形成とその特徴
13	日本経済の模索・・・石油ショックの克服と貿易摩擦
14	アメリカの対日政策と苦悩する日本経済
15	日本の光と影
16	

【履修上の注意事項】

歴史や社会問題に関心のある人を歓迎します。

【評価方法】

レポート60%、授業への参加意識（出席や質問等）40%

【テキスト】

太田愛之 他 『日本経済の二千年』勁草書房

【参考文献】

寺西重郎『日本の経済システム』岩波書店
野口悠紀雄『1940年体制』東洋経済新報社

日本経済論 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本経済論 I では、日本経済をどのように把握するかを論じた上で、明治以後、特に戦後の日本経済の歩みを振り返ることによって、現在の日本経済の特徴や問題がいかにして形成されてきたのかを論じます。その上で、「失われた0年」とも言われるバブル崩壊後の長期低迷やデフレの問題を取り上げ、その原因と脱出策、財政金融政策と構造改革、アベノミクスとの関連等を論じます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明
2	序 章 日本経済への視角 1. 日本経済観の系譜
3	2. 日本社会は非近代的で不健全なのか 3. システムとしてとらえる
4	第1章 日本経済の歩み—明治から高度経済成長期まで 1. 近代経済発展の概観
5	2. 戦前の経済発展 3. 戦時の統制経済
6	4. 戦後占領期 4. なぜ、高度経済成長が実現したのか？
7	2. 高度経済成長期の成長と循環 5. 政策と社会
8	6. 高度成長の終焉 ニクソンショックと石油ショック
9	7. 成長率低下への調整 8. 減量経営と戦後社会の転換
10	第2章 バブル景気と「失われた20年」 1. 国際経済・通貨の激動
11	2. 「小さな政府」運動 3. 円高不況とバブルの発生
12	4. バブル反動不況 5. 不況の二番底
13	6. 三番底・リーマンショックと東日本大震災
14	7. アベノミクス・・・長期不況からの脱出はなるか
15	補足1 アメリカの金融帝国主義、グローバリゼーションと格差社会
16	補足2 世界金融危機と国際通貨秩序の動揺

【履修上の注意事項】

経済・社会問題とその歴史的背景に関心を持ってください。。

【評価方法】

レポート60%、授業への参加姿勢（出席や質問等）40%

【テキスト】

未定

【参考文献】

寺西重郎『日本の経済システム』岩波書店、伊藤修『日本の経済』中公新書、岩田規久男『日本経済を学ぶ』ちくま新書、三橋貴明『逆説の経済学』遊タイム出版

日本経済論Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

ファイナンシャル・プランニング I

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の主な仕事は、住宅取得を考えている人の相談役として、法律知識を提供したりアドバイスすることです。
金融機関の仕事上、FP知識は不可欠です。
自分や家族が将来直面する金銭的な問題について、解決するための知識を理解しておくことは有益です。
ファイナンシャル・プランニング I とファイナンシャル・プランニング II を必ずセットで同時に受講すること。
今年9月のFP技能検定3級（「学科」と「実技」）試験の受験・合格が目標です。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（1）
- 3 ライフプランニングと資金計画（3）
- 4 リスク管理（1）
- 5 リスク管理（3）
- 6 金融資産運用（1）
- 7 金融資産運用（3）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（1）
- 10 タックスプランニング（3）
- 11 不動産（1）
- 12 不動産（3）
- 13 相続・事業承継（1）
- 14 相続・事業承継（3）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

《重要》

ファイナンシャル・プランニング I とファイナンシャル・プランニング II を必ずセットで同時に受講すること。

毎回電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編集
『わかる!FP技能士3級速攻テキスト〈2014-2015年版〉』 日本経済新聞出版社 2014年

【参考文献】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編集
『わかる!FP技能士3級速攻問題集〈2014-2015年版〉』 日本経済新聞出版社 2014年

ファイナンシャル・プランニングⅡ

担当教員 安藤 由美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ファイナンシャル・プランナー（FP）の主な仕事は、住宅取得を考えている人の相談役として、法律知識を提供したりアドバイスすることです。
金融機関の仕事上、FP知識は不可欠です。
自分や家族が将来直面する金銭的な問題について、解決するための知識を理解しておくことは有益です。
ファイナンシャル・プランニングⅠとファイナンシャル・プランニングⅡを必ずセットで同時に受講すること。
今年9月のFP技能検定3級（「学科」と「実技」）試験の受験・合格が目標です。

【授業の展開計画】

- 1 講義の概要・計画
- 2 ライフプランニングと資金計画（2）
- 3 ライフプランニングと資金計画（4）
- 4 リスク管理（2）
- 5 リスク管理（4）
- 6 金融資産運用（2）
- 7 金融資産運用（4）
- 8 中間テスト1
- 9 タックスプランニング（2）
- 10 タックスプランニング（4）
- 11 不動産（2）
- 12 不動産（4）
- 13 相続・事業承継（2）
- 14 相続・事業承継（4）
- 15 中間テスト2
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

《重要》

ファイナンシャル・プランニングⅠとファイナンシャル・プランニングⅡを必ずセットで同時に受講すること。

毎回電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編集
『わかる!FP技能士3級速攻テキスト（2014-2015年版）』 日本経済新聞出版社 2014年

【参考文献】

ファイナンシャルバンクインスティテュート編集
『わかる!FP技能士3級速攻問題集（2014-2015年版）』 日本経済新聞出版社 2014年

福祉国家論

担当教員 平敷 卓

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、福祉国家論の理念と成り立ちを紐解き、現代の課題を探ることを目的とする。今日の福祉国家が歴史的にどのように形成されてきたのかを検討しつつ、福祉国家の類型論の視角から整理する。講義の後半では、欧米各国の事例を挙げ、所得分配や貧困の現状、社会保障制度の概要と問題点などを具体的に提示し、日本の福祉国家の特徴と今後の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	福祉国家とは？—背景と理念
3	福祉国家の成り立ち (1)
4	福祉国家の成り立ち (2)
5	福祉国家を巡る議論—エスピン・アンデルセン
6	福祉国家を巡る議論—福祉国家論
7	イギリスの社会保障制度 (1)
8	イギリスの社会保障制度 (2)
9	アメリカの社会保障制度 (1)
10	アメリカの社会保障制度 (2)
11	スウェーデンの社会保障制度 (1)
12	スウェーデンの社会保障制度 (2)
13	日本の社会保障制度の概要
14	日本の社会保障制度の現状
15	日本の社会保障制度の課題
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義では、毎回フィードバックペーパーの提出を求め、出席確認とします。基本的な講義マナーを守ることを求めます（私語、携帯・スマホ等の不使用等）。講義は現代社会が抱える問題を適宜提示するため、日ごろより新聞記事等に目を通すこと。

【評価方法】

期末テスト 70% フィードバックペーパー（小テスト込） 30%
 3分の2以上の欠席は、期末テストの受験資格を失います。
 欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。

【テキスト】

特に指定せず、適宜資料を配布して講義を行います。

【参考文献】

講義中に紹介します。

貿易実務 I

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

我が国は貿易立国で貿易実務の科目は、貿易立国を支える学問分野として必要不可欠である。貿易実務の活躍の場は多く 1. 船会社 2. 商社 3. メーカー 4. 航空会社 5. 貿易会社 6. 公的機関 7. 銀行 8. 保険会社 9. 通関業者 10. 海貨業者 11. 混載業者 12. 個人輸入など幅広い。本講座では、貿易実務の基礎をしっかりと学べるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 貿易取引と貿易実務
2	第2週 貿易実務と貿易書類
3	第3週 通関手続と通関業者
4	第4週 海上輸送と船会社
5	第5週 輸出交渉
6	第6週 輸出通関手続
7	第7週 買い取り手続
8	第8週 信用状の発行依頼
9	第9週 輸入貨物の引き取り
10	第10週 信用調査
11	第11週 品質条件
12	第12週 関税
13	第13週 保税制度
14	第14週 コンテナとコンテナターミナル
15	第15週 貨物の荷姿と梱包
16	第16週 前期テスト

【履修上の注意事項】

1. 出席は毎回とります。
2. 疑問点があれば授業中でも質問ができます。
3. 授業中は携帯電話の電源を切ること。

【評価方法】

1. 出席回数
2. テスト評価

以上の2点を中心に評価する。

【テキスト】

木村 雅晴著『はじめての貿易実務』ナツメ社

【参考文献】

特になし

貿易実務Ⅱ

担当教員 新垣 勝弘

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

我が国は貿易立国で貿易実務の科目は、貿易立国を支える学問分野として必要不可欠である。貿易実務の活躍の場は多く、1. 船会社 2. 商社 3. メーカー 4. 航空会社 5. 貿易会社 6. 公的機関 7. 銀行 8. 保険会社 9. 通関業者 10. 海貨業者 11. 混載業者 12. 個人輸入など幅広い。本講座では、貿易実務の基礎をしっかりと学べるようにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	第1週 海上運賃の分類
2	第2週 航空運送と運賃
3	第3週 信用状のチェックポイント
4	第4週 外国為替相場
5	第5週 海上保険の種類
6	第6週 ワシントン条約
7	第7週 貨物引き取りの便利な制度
8	第8週 FCL貨物の具体的な貨物の引き取り
9	第9週 クレーム
10	第10週 業務処理システム
11	第11週 船積み・通関手続を専門業者に依頼する時に作成する書類
12	第12週 船積みの完了を輸入者に知らせる書類
13	第13週 信用状の発行を銀行に依頼する時に作成書類
14	第14週 Invoiceの記載内容
15	第15週 Bill of Ladingの記載内容
16	第16週 後期テスト

【履修上の注意事項】

1. 出席は毎回とります。
2. 疑問点があれば授業中でも質問ができます。
3. 授業中は携帯電話の電源を切ること。

【評価方法】

1. 出席回数
2. テスト評価

以上の2点を中心に評価する。

【テキスト】

木村 雅晴著『初めての貿易実務』ナツメ社

【参考文献】

簿記 I

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記は、会社のお金や財産を管理するための記録手法です。
「パソコン・会計・英語」は社会人の必須知識とされています。
簿記（＝会計）を学んでから、社会人になりましょう。
特に銀行業務の基本は、簿記です。知らないでは済まされません。
簿記 I と簿記 II を必ずセットで同時に受講すること。
来年 2 月の日商簿記検定 3 級試験の受験・合格が目標です。

【授業の展開計画】

1. 講義の概要・計画
2. 簿記の基礎
3. 商品売買（2）
4. 当座預金
5. 手形（1）
6. 中間テスト A
7. 有価証券
8. 債権債務（2）
9. 減価償却
10. 繰延・見越
11. 伝票・締切
12. 精算表（2）
13. 中間テスト B
14. 試算表（2）
15. 過去問題（2）
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

《重要》

簿記 I と簿記 II を必ずセットで同時に受講すること。

毎回電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

開講時に指定します。

【参考文献】

簿記Ⅱ

担当教員 安藤 由美

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

簿記は、会社のお金や財産を管理するための記録手法です。
「パソコン・会計・英語」は社会人の必須知識とされています。
簿記（＝会計）を学んでから、社会人になりましょう。
特に銀行業務の基本は、簿記です。知らないでは済まされません。
簿記Ⅰと簿記Ⅱを必ずセットで同時に受講すること。
来年2月の日商簿記検定3級の受験・合格が目標です。

【授業の展開計画】

1. 講義の概要・計画
2. 商品売買（1）
3. 現金
4. 小口現金
5. 手形（2）
6. 貸付金
7. 債権債務（1）
8. 消耗品・貸倒
9. 資本金
10. 帳簿記入
11. 精算表（1）
12. 精算表（3）
13. 試算表（1）
14. 過去問題（1）
15. 過去問題（3）
16. 期末テスト

【履修上の注意事項】

《重要》

簿記Ⅰと簿記Ⅱを必ずセットで同時に受講すること。

毎回電卓を持参すること。
前回講義の確認として小テストを実施する。

【評価方法】

中間テスト、期末テスト、小テストに基づき評価する。

【テキスト】

開講時に指定します。

【参考文献】

マクロ経済学 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学は、これから皆さんが学んでいく理論、実証、政策等の諸科目の基礎になる必須の知識を提供します。また、経済のニュース等を理解するためにも必要ですし、公務員試験や就職試験等でもよく出題されます。講義は日本で最もポピュラーな中谷巖先生の教科書に沿って行われます。広範囲の内容が現在の主流派の考えに従って整理されていますが、幅広い内容の本なので根気よく取り組むことが肝要です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明
2	Part 1 イントロダクション 第1章 日本経済の循環と変動
3	第2章 GDPの概念と物価指数（1）
4	〃 GDPの概念と物価指数（2）
5	第3章 マクロ経済学における短期と長期
6	宿題の解説等
7	Part 2 短期モデル 第4章 所得はどのように決まるか（1）
8	〃 所得はどのように決まるか（2）
9	第5章 貨幣の需給と利子率（1）
10	〃 貨幣の需給と利子率（2）
11	第6章 IS-LM分析と財政金融政策（1）
12	〃 IS-LM分析と財政金融政策（2）
13	第7章 国際マクロ経済学（1）
14	〃 国際マクロ経済学（2）
15	練習問題の解説等
16	期末試験

【履修上の注意事項】

予習復習を欠かさず、ノートを採ること、解らない所があれば解るまで質問をして下さい。章ごとに宿題を出します。経済のニュースに関心を持ってください。

【評価方法】

試験50%、宿題20%、授業への参加姿勢（出席や質問等）30%

【テキスト】

中谷巖 『入門 マクロ経済学 第5版』日本評論社・・・変更の可能性あるので、買うのは第1週の講義の紹介を聞いてからにして下さい。

【参考文献】

大竹文夫 『スダイガイド 入門マクロ経済学 第5版』日本評論社、
ジョン・ケイ 『市場の真実』中央経済社

マクロ経済学 I

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

景気、物価、失業率など、現在日本の国内外の経済が直面している様々な問題の現状、その背景や要因など、現実の経済問題を理解するのに役立つ基本的なマクロ経済学の基礎理論を学び、それにもとづいて将来予測や解決策について考えていきます。

この授業では、今日の日本の経済が直面する問題、貿易、金融などの世界経済社会が直面している国際経済問題といった国内外の経済社会に関わるマクロ的な経済事象と関連づけながら基礎理論の解説を行い、現実の経済政策・経済問題について自分なりの意見を持てるようにします。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション：マクロ経済学とは何か
- 第2回 一国の経済力の指標（GDP）①：一国の経済状態はどのようにとらえられるのか
- 第3回 一国の経済力の指標（GDP）②：景気循環をどのようにとらえるのか
- 第4回 消費と貯蓄の理論①：消費と貯蓄はどのように決定されるのか
- 第5回 消費と貯蓄の理論②：日本の貯蓄率はどのように推移してきたか
- 第6回 設備投資と在庫投資：投資は何のためにするのか
- 第7回 金融と株価①：マクロ経済において金融はどのような役割を果たすのか
- 第8回 金融と株価②：株価の決定理論とそれに基づく投資理論を学ぶ
- 第9回 貨幣の需要と供給①：貨幣はどのような機能を果たすのか
- 第10回 貨幣の需要と供給②：何が貨幣需要を増やすのか
- 第11回 貨幣の需要と供給③：貨幣供給とそのコントロールの手段とは何か
- 第12回 総需要に着目した経済分析①：国民所得はどのように決定されるのか
- 第13回 総需要に着目した経済分析②：財市場の均衡と貨幣市場の均衡について学ぶ
- 第14回 総需要に着目した経済分析③：IS-LM分析と財政・金融政策について学ぶ
- 第15回 復習・総括
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回の講義に授業の進め方や成績評価について説明します。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の経済問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

講義回数の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。出席、授業内小テスト等の平常点、期末試験で総合評価します。

【テキスト】

- ・福田慎一・照山博司、2011年、『マクロ経済学・入門』第4版、有斐閣。

【参考文献】

- ・福田慎一・照山博司、2013年、『演習式 マクロ経済学・入門』補訂版、有斐閣。

マクロ経済学Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学は、これから皆さんが学んでいく理論、実証、政策等の諸科目の基礎になる必須の知識を提供します。また、経済のニュース等を理解するためにも必要ですし、公務員試験や就職試験等でもよく出題されます。前期のマクロ経済学Ⅰに引き続き、テキストの残りの部分を講義します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明
2	Part 3 長期近郊への調整 第8章 短期モデルと長期モデルの比較（1）
3	〃 短期モデルと長期モデルの比較（2）
4	第9章 物価水準はどのように決まるか（1）
5	〃 物価水準はどのように決まるか（2）
6	第10章 インフレとデフレ（1）
7	〃 インフレとデフレ（2）
8	Part 4 消費・投資 第12章 消費と貯蓄（1）
9	〃 消費と貯蓄（2）
10	第13章 投資決定の理論（1）
11	〃 投資決定の理論（2）
12	Part 5 マクロ経済学の新潮流 第15章 マクロ政策の有効性について
13	第16章 エピローグ
14	練習問題解説等
15	質問等
16	期末試験

【履修上の注意事項】

予習復習を欠かさず、ノートを採ること、解らない所があれば解るまで質問をして下さい。章ごとに宿題を出します。経済のニュースに関心を持ってください。

【評価方法】

試験50%、宿題20%、授業への参加姿勢（出席や質問等）30%

【テキスト】

中谷巖 『入門マクロ経済学 第5版』日本評論社・・・変更の可能性あり。

【参考文献】

大竹文夫 『スグデイガイド 入門マクロ経済学 第5版』日本評論社、ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社、井本友文『ジョブレス・リカバリー』日本評論社

マクロ経済学Ⅱ

担当教員 長嶋 佐央里

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

景気、物価、失業率など、現在日本の国内外の経済が直面している様々な問題の現状、その背景や要因など、現実の経済問題を理解するのに役立つ基本的なマクロ経済学の基礎理論を学び、それにもとづいて将来予測や解決策について考えていきます。

この授業では、今日の日本の経済が直面する問題、貿易、金融などの世界経済社会が直面している国際経済問題といった国内外の経済社会に関わるマクロ的な経済事象と関連づけながら基礎理論の解説を行い、現実の経済政策・経済問題について自分なりの意見を持てるようにします。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 経済政策の有効性①：IS-LM分析における財政政策と金融政策はどのような効果があるのか
- 第3回 経済政策の有効性②：マネタリズムの経済政策の考え方はどのようなものか
- 第4回 財政赤字と国債①：なぜ政府の借金が問題となるのか
- 第5回 財政赤字と国債②：国債による財源調達方法は経済に影響を与えるのか
- 第6回 インフレとデフレ①：インフレはなぜ生じるのか
- 第7回 インフレとデフレ②：インフレのコストとは何か・デフレはなぜ生じるのか
- 第8回 マクロ経済における労働市場①：失業はなぜ発生するのか
- 第9回 マクロ経済における労働市場②：失業率の変動について考える
- 第10回 マクロ経済における労働市場③：日本の失業率の変動について考える
- 第11回 経済成長の理論①：経済はなぜ成長するのか
- 第12回 経済成長の理論②：経済成長をもたらす要因は何か
- 第13回 国際マクロ経済①：為替レートはどのように決定されるのか
- 第14回 国際マクロ経済②：経常収支はどのように決定されるのか
- 第15回 復習・総括
- 第16回 期末試験

【履修上の注意事項】

- ・初回の講義に授業の進め方や成績評価について説明します。
- ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の経済問題に関心を持ってほしいと思います。

【評価方法】

講義回数の2/3以上の出席を成績評価の前提とします。出席、授業内小テスト等の平常点、期末試験で総合評価します。

【テキスト】

- ・福田慎一・照山博司、2011年、『マクロ経済学・入門』第4版、有斐閣。

【参考文献】

- ・福田慎一・照山博司、2013年、『演習式 マクロ経済学・入門』補訂版、有斐閣。

マルクス経済学Ⅰ

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルクス経済学は、わが国の高度成長期にも、その破綻の時期にも、絶えず真実を追究しつづけてきた。そして現在、世界の激動期に、ますますその真価を発揮しつつあるものが、マルクス経済学である。従来の経済学は、人間や自然の視点が欠落しているといわれる。いわば人間の根元的な営みが全く無視されてきたのである。この問題に関する答えは、実はマルクス経済学が提供してくれる。そのような意味で、この経済学を学ぶ意義がある。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義内容、評価の方法などの説明
2	マルクス経済学の形成
3	初期マルクス
4	中期マルクス
5	『資本論』の成立
6	マルクス経済学の対象と課題
7	マルクス経済学の方法
8	商品の二要因と労働の二重性
9	価値形態論の課題
10	価値表現の論理
11	価値形態の発展
12	商品の物神性
13	交換過程の課題
14	全面的交換の矛盾と貨幣成立の必然性
15	貨幣の諸機能
16	期末試験

【履修上の注意事項】

理論を積み重ねていく講義であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

講義の中で適宜指示する。

マルクス経済学Ⅱ

担当教員 梅井 道生

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルクス経済学Ⅰからの続きである。ここでは貨幣、資本、剰余価値理論、賃金論を中心に講義を進めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	貨幣の機能
2	価値の尺度、価格の度量基準、铸貨、価値章標
3	貨幣蓄蔵、支払い手段、世界貨幣
4	貨幣の資本への転化—資本の概念
5	W-G-WとG-W-Gの形態的、内容的相違
6	資本の一般的定式の矛盾
7	労働力の売買
8	労働力の商品化と価値規定
9	剰余価値の生産
10	絶対的剰余価値
11	相対的剰余価値、特別剰余価値
12	賃金
13	労働力の価値および価格の賃金への転化
14	賃金の基本形態—時間賃金、出来高賃金
15	資本の循環過程
16	期末試験

【履修上の注意事項】

理論の積み重ねの講義であるから、毎回の出席が必要である。

【評価方法】

定期テストおよびレポート等で総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献】

必要があれば講義時に指示する。

マルチメディア表現

担当教員 浦本 寛史

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マルチメディアに関する基本的な考え方、基礎的な技術や表現方法を実践的な演習・実習を通して修得し、「情報を伝達する」ということや「イメージと表現」についての理解を得ることを目的とする。イメージの様々な基本的表現や、ビジュアルコミュニケーションにおけるデザインのありかた、また、技術や視覚的効果としてのレイアウト（レイアウト・フォーマットの概念）などについて学習し、その重要性を認識・実践できることを目標とする。

【授業の展開計画】

到達目標は以下のとおり。

1. マルチメディアの基本的概念について説明ができる
2. 各メディアの特性と制作に必要な技術の基本理論について説明ができる
3. ビジュアルコミュニケーションを通してアイデアを視覚化することができる
4. インストラクショナル・デザインを踏まえ、マルチメディアコミュニケーションの評価手法を身につける

- 1回目：メディア・リテラシーの定義（様々なメディア・リテラシーの定義を習得し、自分なりの定義を説明）
- 2回目：フォトランゲージ（写真を読み取る力をつけ、メディアの特性を習得）
- 3回目：マルチメディアの定義と特性（各メディアの特性と利用法を習得し、マルチメディアの定義を説明）
- 4回目：インターネットの仕組み（インターネットの仕組みを理解し、検索方法、メイリングリスト、ストーリーミング技術を理解）
- 5回目：マルチメディアの表現法（様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得）
- 6回目：マルチメディアの表現法（様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得）
- 7回目：プレゼンテーション手法（パソコンを利用して、効果的なプレゼンテーション手法を習得）
- 8回目：プレゼンテーション手法：上記の続き
- 9回目：中間試験
- 10回目：インストラクショナルデザインの原理（教材開発、メディア開発に必要な設計方法を習得）
- 11回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き
- 12回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き
- 13回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講
- 14回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講
- 15回目：振り返り
- 16回目：最終試験

【履修上の注意事項】

ディスカッション形式や発表の場面が多いため、積極的に授業参加を求める。

【評価方法】

授業への出欠、参加姿勢、最終試験などを総合的に判断、評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。手適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

インストラクショナルデザインの原理（鈴木克明監訳：北大路書房）、行動変容法入門（レイモンドGミルテンバーガー）他、。

ミクロ経済学 I

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことによって、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実を見ることができるよう理論的基礎を築くことが目的です。ある程度の数学的知識が必要なので、高校の数学はきちんと復習しておくことを希望します。

【授業の展開計画】

第1週	講義計画の説明	第9週	中間試験
第2週	ミクロ経済学の考え方	第10・11・12週	企業行動と生産関数
第3週	市場と需要・供給	第13・14・15週	企業行動と費用曲線
第4・5週	消費者と需要	第16週	期末試験
第6・7・8週	消費者行動と需要曲線		

【履修上の注意事項】

講義を真剣に聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

出席状況とレポートおよびテストを総合的に評価する。

【テキスト】

伊藤元重「ミクロ経済学」日本評論社

【参考文献】

N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学く1」ミクロ編」東洋経済新報社、
 ハル・R. ヴァリアン「入門ミクロ経済学」勤草書房

ミクロ経済学 I

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学は、希少な財・資源を用いてどのように人間の福利を高め、経済社会の発展に結びつけるかを探求する学問です。経済学の基礎理論は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。ミクロ経済学は、経済を構成する各主体（家計・企業・政府）の行動原理を研究する学問です。本講義では、消費者の行動原理を中心に学びながら、市場においてどのように資源が効率的に配分されるかを検討します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション ー講義の進め方、日常生活と経済学、講義アンケートー
2	ミクロ経済学とは① ーミクロ経済学とマクロ経済学、経済学の方法ー
3	ミクロ経済学とは② ー機会費用、インセンティブ、情報、価格ー
4	市場機構と需要・供給① ー市場経済の効率性、需要と供給ー
5	市場機構と需要・供給② ー価格弾力性ー
6	消費者行動の理論① ー消費者とは？人は合理的に行動するか？「効用」と満足度ー
7	消費者行動の理論② ー効用関数、無差別曲線、「限界」概念の説明ー
8	消費者行動の理論③ ー限界代替率と限界効用、限界効用の逡減ー
9	消費者行動の理論④ ー需要の決定、上級財と下級財ー
10	消費者行動の理論⑤ ー価格の変化と需要曲線ー
11	消費者行動の理論⑥ ー所得効果と代替効果①
12	消費者行動の理論⑦ ー所得効果と代替効果②
13	消費者行動の理論⑧ ー補完財と代替財、消費者余剰ー
14	本講義のまとめ①
15	本講義のまとめ②、期末テストの説明
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義の終わりに小テスト（不定期）を実施する場合があります。

【評価方法】

期末試験、小テスト、出席状況等を勘案して総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（適宜、パワーポイント資料を配布します）。

【参考文献】

ジョセフ・E・スティグリッツ（藪下史郎訳）『スティグリッツミクロ経済学（第4版）』東洋経済新報社。

ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことによって、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実を見ることができるよう理論的基礎を築くことが目的です。ある程度の数学的知識が必要なので、高校の数学はきちんと復習しておくことを希望します。

【授業の展開計画】

第1週	講義計画の説明	第10週	中間試験
第2・3週	企業の長期費用曲線	第11・12・13週	生産要素市場
第4・5・6週	完全競争市場と効率性	第14・15週	市場の失敗
		第16週	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義を真剣に聞き、討議に参加できること。

【評価方法】

出席状況とレポートおよびテストを総合的に評価する。

【テキスト】

伊藤元重「ミクロ経済学」日本評論社

【参考文献】

N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学<1>ミクロ編」東洋経済新報社、
ハル・R. ヴァリアン「入門ミクロ経済学」勤草書房

ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 比嘉 正茂

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

経済学は、希少な財・資源を用いてどのように人間の福利を高め、経済社会の発展に結びつけるかを探求する学問です。経済学の基礎理論は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。ミクロ経済学は、経済を構成する各主体（家計・企業・政府）の行動原理を研究する学問です。本講義では、企業の行動原理を中心に学びながら、市場においてどのように資源が効率的に配分されるかを検討します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション – 講義の進め方、日常生活と経済学、講義アンケート –
2	市場メカニズムのはなし（ミクロ経済学Ⅰの復習①）
3	消費者行動の理論（ミクロ経済学Ⅰの復習②）
4	企業行動の理論① – 生産関数とは何か –
5	企業行動の理論② – 生産要素、等量曲線 –
6	企業行動の理論③ – 技術的限界代替率と限界生産物 –
7	企業行動の理論④ – 費用関数：等費用曲線の性質 –
8	企業行動の理論⑤ – 費用関数：等量曲線と等費用曲線 –
9	企業行動の理論⑥ – 費用関数：費用の諸概念 –
10	企業行動の理論⑦ – 利潤最大化：価格と限界費用、生産者余剰 –
11	企業行動の理論⑧ – 利潤最大化：損益分岐点、操業停止点 –
12	完全競争市場と効率性① – 消費の効率性、生産の効率性 –
13	完全競争市場と効率性② – 生産と消費の効率性 –
14	不完全競争市場
15	本講義のまとめ、期末テストの説明
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

講義の終わりに小テスト（不定期）を実施する場合があります。

【評価方法】

期末テスト、小テスト、出席状況などを勘案し評価を行う。

【テキスト】

適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布します。

【参考文献】

伊藤元重（2003）『ミクロ経済学』日本評論社

理論経済学 I

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

マクロ経済学やミクロ経済学の標準的な経済理論（新古典派経済学）はかなり極端な前提の上に構築されたものです。これらは現実の写実的な描写というよりはむしろ象徴的なモニュメントと見るべきでしょう。最先端の経済学が情報の不完全性、リスク、計画、環境問題、市場の進化、協力と社会的統合、貧富の格差等の現実をどのように見ているのか、数学をまったく使わずに解説します。マクロ・ミクロの経済学を履修した人にもまだ履修していない人にも役に立つと思います。

【授業の展開計画】

テキストを丁寧に解説した後で補足説明をします。

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明
2	序 章 市場の勝利
3	第 1 部 経済システムの構造 第 1 章 市場と制度
4	第 2 章 生産と交換
5	第 3 章 配分
6	第 4 章 中央による計画化
7	第 5 章 多元主義
8	第 6 章 自然発生的な秩序
9	第 2 部 市場についての真実 第 7 章 新古典派経済学とその後
10	第 8 章 合理性と適応性
11	第 9 章 情報
12	第 1 0 章 現実のリスク
13	第 1 1 章 協力
14	第 1 2 章 調整
15	第 1 1 章 知識経済
16	補足 信頼と組織、雇用と文化

【履修上の注意事項】

世界の政治・経済・社会に関心を持っている人なら、ミクロ・マクロの経済学を未履修であっても構いません。この講義によって、ミクロやマクロの経済学に興味を深めるだろうと思われます。

【評価方法】

レポート 60%、授業への積極性(出席や質問等) 40%

【テキスト】

ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社

【参考文献】

荒井一博 『信頼と自由』勁草書房

荒井一博 『文化・組織・制度』有斐閣

理論経済学Ⅱ

担当教員 湧上 敦夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

理論経済学Ⅰに引き続き、テキストの残りの章を説明した後に、関連する問題・・・主としてマクロ経済学や国際経済学の問題・・・を採り上げます。

【授業の展開計画】

テキストの解説の後に、テキストを補足するための議論をします。

週	授 業 の 内 容
1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法を説明
2	第Ⅲ部 市場はどのように動いたか 第14章 貧しい国は貧しいままに
3	第15章 誰が何を得るのか
4	第16章 場所
5	第17章 アメリカン・ビジネス・モデル第
6	第18章 経済学の将来
7	補足1 「冷戦の勝利」と「歴史の終わり」、ワシントン・コンセンサスとグローバリズム
8	補足2 新自由主義・市場万能主義とアメリカ社会の2極分解
9	補足3 グローバリゼーションと南北問題、途上国の分解、制度・社会・文化の画一化
10	補足4 グローバリゼーションと先進国の労働市場、北欧と日本
11	補足5 「資本主義対資本主義」
12	補足6 ドル覇権と金融帝国主義、世界金融危機と世界不況、国際通貨体制の動揺
13	補足7 バブルとデフレ
14	補足8 新古典派とケインズの経済学
15	補足9 財政危機の克服と金融システム再編成
16	補足10 日本型資本主義の再評価と進化のために

【履修上の注意事項】

テキストの著者ケイは実に広範なテーマを巧みな話術で軽妙に捌いていきますが、扱っている問題は実はとても高度な問題です。また、とても博学なのでたくさんの引用をしますが、細部には余りこだわらず、経済学の全体像をつかむようにしてください。

【評価方法】

レポート60%、授業への積極性(出席や質問等)40%

【テキスト】

ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社

【参考文献】

小林由美『超・格差社会アメリカの真実』日経BP/J・E・ステイグリッツ『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』徳間書店/T・フリードマン『フラット化する世界(上、下)』日本経済新聞社

労働経済学Ⅰ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

沖縄県の失業率は、全国一高い水準となっており、高校・大学卒業予定者の内定率も全国に比べ低い。また、フリーターやニートなど若年者の雇用・失業問題も社会的な関心を高めている。このような環境は、いずれ就職戦線に出る皆さんにも身近な問題である。本講義では、労働市場を形成する労働供給及び労働需要の要因について学ぶ。すなわち、我々は何を基準に働こうとするのか、企業は何を基準に労働者を雇おうとするのか、また、なぜ失業が発生するのかなど労働経済の基礎理論を学ぶ。これによって、労働経済学Ⅱでテーマとして取り上げる沖縄の若年失業率の高さやフリーター問題、学歴・男女間賃金格差などの現在の労働問題の理解が容易になる。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明

第2週～第10週（基礎理論編）

1. 労働経済学について
2. 労働需要
3. 労働供給
4. 労働市場分析（労働の需給分析）

第11週～16週（実態編）

5. 失業Ⅰなぜ失業は発生するのか（失業の理論）
6. 失業Ⅱどんな人が失業しているのか（ビデオ鑑賞など）
7. 賃金（年功序列賃金、成果主義など）
8. 労働時間（残業代の理論など）
9. 期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること

【評価方法】

出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する

【テキスト】

特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映、労働をテーマにした映画上映等を行う。

【参考文献】

清家篤著、「労働経済」東洋経済出版社、玄田有史 「仕事のなかの曖昧な不安」中央公論新社、中馬宏之著、「労働経済学」新世社

労働経済学Ⅱ

担当教員 名嘉座 元一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、労働経済学Ⅰで学んだ基礎理論をもとに沖縄県の雇用労働情勢や雇用政策等の現実の問題、さらに国や県が行っている雇用政策等について学ぶ。

特に、フリーターや若年失業者問題は学生諸君にとって身近な問題であり、若年者の意識の問題や企業側の問題についてビデオ等による具体例を見ながら検討する。また、正社員と非正社員の処遇を巡る問題、ブラック企業の問題、賃金における学歴格差や男女間格差等についても学ぶ。さらに、オランダにおけるワークシェアリングなど海外の働き方や雇用対策についても学ぶ。

【授業の展開計画】

第1週 講義計画の説明

2. 現在の労働問題概観（景気と労働問題、若者の働き方、派遣の問題など）

3. 賃金と労働時間

4. 賃金格差Ⅰ（高卒と大卒なぜ賃金が違うのか）

5. 賃金格差Ⅱ（なぜ男女格差、産業間格差があるのか）

6. 全国と沖縄の雇用・失業状況

7. 若者の雇用問題Ⅰ（大卒の就職率、フリーターなどの現状）

8. 若者の雇用問題Ⅱ（若者の就業意識、企業はフリーターをどう評価しているかなど）

9. 沖縄の雇用問題Ⅰ（現状と課題）

10. 沖縄の雇用問題Ⅱ（沖縄の若者はなぜすぐ離職するのか、沖縄にブラック企業はあるかなど）

11. ワーキングプアの実態

12. グローバル時代における働き方Ⅰ（海外に仕事が流れる、労働移民の実態など）

13. グローバル時代における働き方Ⅱ（日本と外国どっちが働きやすいのかなど）

14. 高齢者雇用問題（定年制、年金問題、再雇用の問題など）

15. これからの働き方（ワークシェアリング、ワークライフバランスなど）

16. 期末試験

【履修上の注意事項】

真剣に講義を聞き、討議に参加できること

【評価方法】

出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する

【テキスト】

特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映等を行う。

【参考文献】

橋木俊昭、「いま、働くということ」ミネルヴァ書房

玄田有史、「ニートフリーターでもなく失業者でもなく」幻冬舎

川村遼平、「若者を殺し続けるブラック企業の構造」角川oneテーマ21